marantz®

Model SR4300 取扱説明書

AV Surround Amplifier

お買い上げいただき、ありがとうございます。
ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。
お読みになったあとは、「保証書」とともに大切に保存してください。
なお、お買い上げいただきました製品は、厳重な品質管理のもとに生産されおりますが、ご不審な箇所などがありましたら、お早めにお買い上げ店、または最寄りの日本マランツ(株)各営業所にお問い合わせください。

本機の主な特長

全6ch同一パワー・ディスクリート・パワーアンプ搭載

- 125W（実用最大出力 6Ω）x 6chのパワーアンプを搭載。DOLBY SURROUND EXやDTS-ESなどの6.1chソースをパワフル且つハイクオリティに再生します。

最新サラウンドデコーダーをフル搭載

- 「ドルビーデジタルEX」、「DTS-ES」（ディスクリート6.1／マトリクス6.1）、6.1chマトリクスフォーマットの「DTS Neo:6」、CS5.1が更にパワーアップした「サークルサラウンドⅡ」の各デコーダーをフル搭載。

サークルサラウンドⅡ

- サークルサラウンド（以下CS）は様々なソースを6.1ch化します。CSエンコードされたソフトはもちろん、ステレオ（2ch）ソースやモノラル（1ch）ソースさえ6.1ch化できます。 テレビやビデオなどをお楽しみいただく際に効果を発揮します。

従来機能も内容を強化

- ドルビープロロジックⅡのパラメーターコントロールを装備。ミュージックモードで、ディメンジョン、センターウイズスのコントロールとパノラマのON／OFF切替えが可能になり、リスニングルームの環境や再生ソフトに合わせた微調整ができるようになりました。

  またCS Ⅱは、MUSIC／CINEMAに加え、MONOモードを新たに装備。 モノラル音源からの6.1ch化も可能な上、CS Ⅱの新機能であるTruBassやSRS Dialogも搭載した強力な6.1chマトリクスサラウンドデコーダーを装備しました。

スーパーオーディオ(SACD／DVD-AUDIO)対応

- 後面に6.1chのダイレクト外部入力端子を装備し、SACDマルチチャンネルプレーヤーやDVDオーディオプレーヤーのアナログマルチチャンネル出力端子に対応できます。また、パワーアンプは、ワイドレンジ／高音質設計で各種ソースに余裕を持って対応します。

HT-EQ(ホームシアター・イコライザー)搭載

- 映画館ではセンタースピーカーがスクリーンの後ろにあるため、映画ソフトはスクリーンでの減衰を見込んで高域を強調して録音されています。 本機では、映画館とホームシアターとの差異を補正するHT-EQ（ホームシアター・イコライザー）を搭載し、製作者の意図通りの映画再生をご家庭でお楽しみいただけます。

豊富なデジタル入出力端子を装備

- デジタル入力端子 同軸2系統／光2系統、デジタル出力端子 同軸1系統／光1系統を装備し、DVDプレーヤーからCDレコーダー、MDデッキなどのデジタル録音機器まで幅広く対応します。

全チャンネル大型スクリュー式スピーカーターミナル採用

安全上のご注意

ご使用の前に、この「取扱説明書」をよくお読みになり、正しくお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られる場所に保証書と共に必ず保管してください。

絵表示について

この「安全上のご注意」は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告　この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意　この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

△記号は注意を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は指をはさまれないように注意）が描かれています。

警　告

● 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。

● 万一内部に水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

● 万一機器の内部に異物が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

● 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

● 風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

● 乾電池は、充電しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となります。

● 雷が鳴り出したら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

● 表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。

● この機器を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。

● この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

● 万一、この機器を落したり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

● この機器の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。この機器には、内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や低部などに通風孔があけてあります。次のような使い方はしないでください。

この機器をあお向けや横倒し、逆さまにする。この機器を押し入れ、専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い所に押し込む。テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上において使用する。

● この機器を設置する場合は、壁から2.5cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2.5cm以上、背面から2.5cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり火災の原因となります。

● 電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。

警　告

- この機器の通風孔、ディスク挿入口などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落し込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。
- この機器の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。

- この機器の裏ぶた、キャビネット、カバーは絶対外さないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。
- この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。

- 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

注　意

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
- 電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- 窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。
- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

- オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱しやけどの原因となることがあります。
- ディスクの再生する前には、音量（ボリューム）を最小にしてください。突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。また、またはテレビ等の音声を本機のスピーカーを使ってお楽しみなる前にも、音量（ボリューム）を最小にしてください。

- 電池をリモコン内に挿入する場合、極性表示プラス⊕とマイナス⊖の向きに注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- 旅行などで長期間、この機器をご使用にならないときは安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

- 5年に一度くらいは機器内部の掃除を販売店などにご相談ください。機器の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店などにご相談ください。

- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

注　意

● 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

● 電池は、金属性のボールペン、ネックレス、ヘアーピンなどと一緒に携帯、保管しないでください。電池のプラス⊕端子とマイナス⊖端子の間がショートし、電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

● 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

● 長期間使用しないときは、電池をリモコンから取り出しておいてください。電池から液がもれて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液がもれた場合は、電池室についた液をよく拭き取ってから新しい電池をいれてください。また、万一、もれた液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

● 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

● 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、ProLogic及びダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

DOLBY
DIGITAL・EX
PRO LOGIC II

SRSと(●)記号は米国と選択された諸外国におけるSRS Labs, Inc.の商標です。SRS CS-II技術は、SRS Labs, Inc.からのライセンスにより製品化されています。

CS II
by SRS(●)

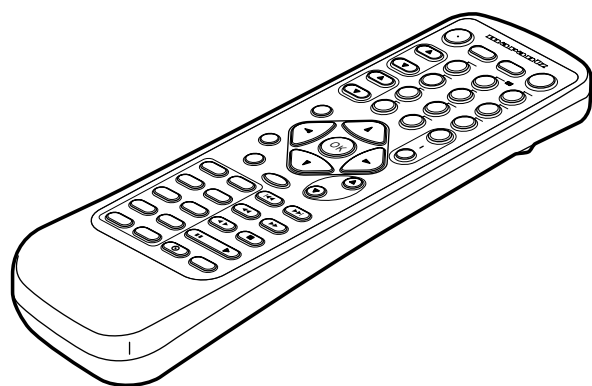
DTSおよびDTS Digital Surroundは、Digital Theater System, Inc.の登録商標です。

付属品の確認

下記の付属品が揃っていることを確認してください。
もし、不足している物がありましたら、お買い上げになった販売店、または弊社営業所にお問い合わせください。

リモコン（RC4300SR） 1個

単4形乾電池 2本

AMループアンテナ 1個

FMアンテナ 1本

保証書 1部（外箱に貼り付け）

愛用者カード 1枚

取扱説明書(本書) 1冊

目　次

各部の名称とはたらき

前面

① POWER(パワー)/STANDBY(スタンバイ)スイッチ、STANDBY(スタンバイ)インジケーター

このスイッチを押すと、本機の電源が入ります。もう一度押すと、電源スタンバイ状態になり、STANDBYインジケーターが点灯します。また電源スタンバイ状態で入力選択ボタンを押しても電源が入ります。

② SURROUND(サラウンド)モード選択ツマミ

サラウンドモードの切替えに使います。

③ CLEAR(クリア)ボタン

「AM/FM放送局の自動登録」や「登録した放送局の呼び出し」を途中でやめるとき、「登録した放送局」を消すときにこのボタンを押します。

④ MEMORY(メモリー)ボタン

「AM/FM放送局の登録番号」や「放送局の名前」を入力する時にこのボタンを押します。

⑤ TUNING/PRESET(チューニング/プリセット) ▲/▼ ボタン

AMまたはFMの放送局を選局する際、周波数や放送局の登録番号を変更するときにこれらのボタンを押します。

⑥ F/P(周波数/プリセット)ボタン

AMまたはFMの放送局を選局する際、「周波数による選択」または「登録番号による選択」のいずれかに切り替えるときにこのボタンを押します。

⑦ MODE(モード)ボタン

FMを聴いている時に受信モードを「AUTO STEREO(オートステレオ)モード」または「MONO(モノラル)モード」のいずれかに切り替えるときにこのボタンを押します。

⑧ リモートコントロール受光部

リモコンから送信されるコントロール信号を受光します。

⑨ VOLUME(音量調整)ツマミ

全体の音量調整に使います。右に回すと音量が大きくなり、左に回すと音量が小さくなります。

⑩ 入力選択ボタン

入力ソースを選択する時に使います。
ビデオ系(TV、DVD、VCR1、DSS/VCR2)の入力ソースを選んでから、オーディオ系(CD、TAPE、CDR/MD、TUNER)の入力ソースを選ぶと、ビデオ系の映像とオーディオ系の音声を同時にお楽しみいただけます。

⑪ 6.1CH-INボタン

6.1CH入力を選択する時にボタンを押します。もう一度押すと、切り替える前に選択していた入力ソースに戻ります。

⑫ PHONES(ヘッドホン)端子

ヘッドホン用の接続端子です。この端子にヘッドホンを接続すると、スピーカーからの音声は自動的に無音になります。

ご注意

- ヘッドホンをご使用の場合、サラウンドモードは自動的にSTEREO(ステレオ)に切り替わります。ヘッドホンをPHONES端子から外すと、ヘッドホンを接続する前に設定していたサラウンドモードに戻ります。

⑬ A/D(アナログ/デジタル)ボタン

音声入力信号の「アナログ入力」または「デジタル入力」の切替えに使います。

ご注意

- このボタンはシステムセットアップでアナログ入力に設定されている入力ソースには働きません。

⑭ HT-EQ(ホームシアターイコライザー)ボタン
HT-EQ(ホームシアターイコライザー)機能を使うときにこのボタンを押します。この機能はサラウンドモードがAUTO、DOLBY、DTSまたはSTEREOのときに使用できます。

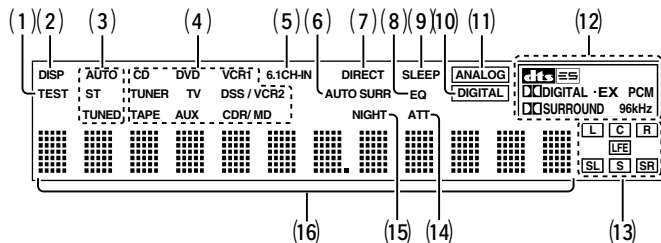
⑮ S-DIRECT(ソースダイレクト)ボタン
このボタンを押すと、トーンコントロール回路などをバイパスする「ソースダイレクト」モードになります。

ご注意

- ソースダイレクトモードにすると、サラウンドモードは自動的にAUTOに切り替わります。
- ソースダイレクトモードを解除するには、本体またはリモコンを使って他のサラウンドモードを選びます。
- ソースダイレクトモードにすると、各スピーカーのサイズは自動的に以下のように固定されます。
- FRONT(フロント)=LARGE、CENTER(センター)=LARGE、SURROUND(サラウンド)=LARGE、SUBWOOFER(サブウーファー)=ON

⑯ DIMMER(ディマー)ボタン
このボタンを一度押すと表示部が暗くなります。もう一度押すとDISPインジケーターが点灯し、表示部が消灯します。さらにもう一度押すと、表示部が通常の明るさに戻ります。

⑰ MUTE(ミュート)ボタン
このボタンを押すとスピーカーやヘッドホンから出力される音を一時的に消します。もう一度押すと元の音量に戻ります。

表示部

(1) TEST(テストトーン)表示
スピーカーレベルの設定において、テストトーンが出力されるときに点滅します。

(2) DISP(ディスプレイオフ)表示
表示部が消灯(ディスプレイオフ)の状態のときに点灯します。

(3) チューナーの表示部
AUTO(オート)：チューナーがAuto(オート)モードで使用されているときに点灯します。
ST(Stereo：ステレオ)：FMの放送局をステレオ受信しているときに点灯します。
TUNED(チューンド)：放送局を充分な信号強度で受信したときに点灯します。

(4) 入力ソース表示
現在の入力ソースを表示します。

(5) 6.1CH-IN(6.1チャンネル入力)表示
6.1CH-IN(6.1チャンネル入力)が入力ソースとして選ばれているときに点灯します。

(6) AUTO.SURR(オートサラウンド)表示
AUTO SURROUND(オートサラウンド)モードが使用されているときに点灯します。

(7) DIRECT(ソースダイレクト)表示
ソースダイレクトモードのときに点灯します。

(8) EQ (HT-EQ：ホームシアターイコライザー)表示
HT-EQ(ホームシアターイコライザー)機能が動作しているときに点灯します。

(9) SLEEP(スリープタイマー)表示
スリープタイマー機能を使用しているときに点灯します。

(10) DIGITAL(デジタル)入力表示
デジタル入力ソースが選ばれているときに点灯します。

(11) ANALOG(アナログ)入力表示
アナログ入力ソースが選ばれているときに点灯します。

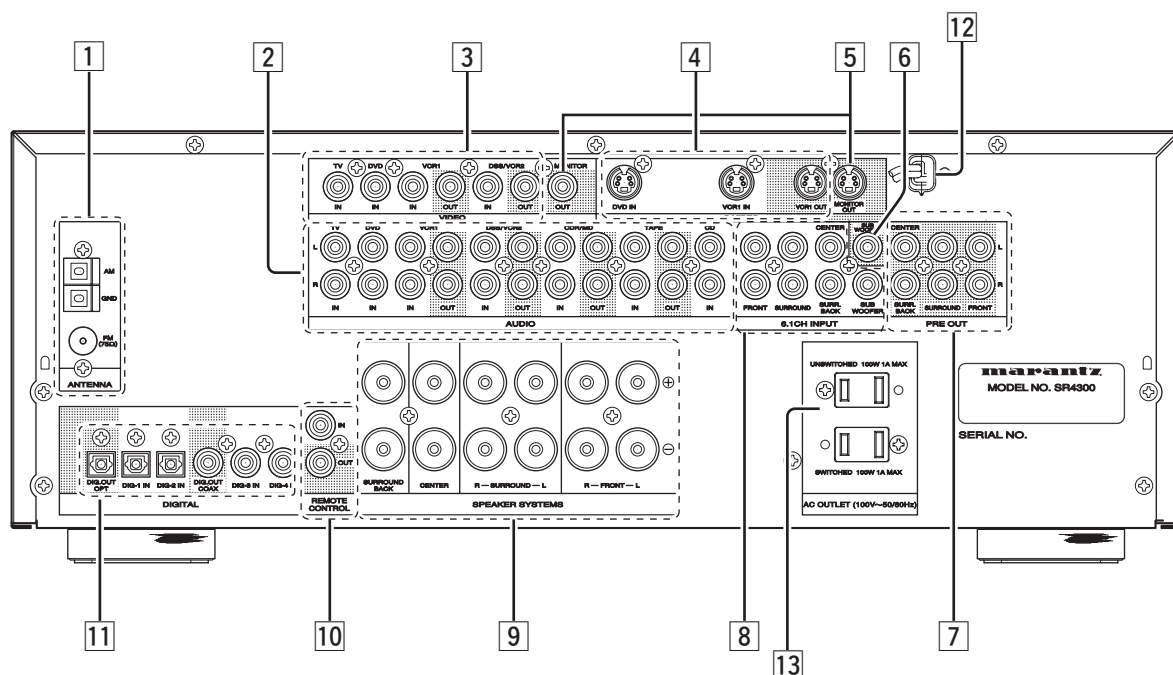
(12) デジタル信号フォーマット表示部
デジタル入力を選択しているときに、入力されている信号のフォーマットを点灯表示します。

(13) エンコードチャンネル表示
デジタル入力信号に記録(エンコード)されているチャンネルを表示します。選ばれているデジタル入力信号がDolby Digital 5.1ch や DTS 5.1ch の場合、L、C、R、SL、SR、LFEが点灯します。 デジタル入力信号がPCM 2chの場合、LとRが点灯します。SURROUND EXのフラグを持つDolby Digital 5.1ch信号やDTS-ES信号の場合は、L、C、R、SL、S、SR、LFEが点灯します。

(14) ATT(アッテネーション)表示
アッテネーション機能が働いているときに点灯します。

(15) NIGHT(ナイト)モード表示
NIGHT(ナイト)モードのときに点灯します。NIGHT(ナイト)モードは小音量時にデジタル音源のダイナミックレンジを押さえます。

(16) メイン情報表示部
現在の状況、サラウンドモード、チューナー、音量またはその他の操作状況のメッセージを表示します。

後面

1 アンテナ端子

FMアンテナ端子
付属のFMアンテナもしくは屋外アンテナを接続します。
AMアンテナ端子
付属のAMループアンテナもしくは屋外アンテナを接続します。

2 音声入出力端子

AV機器のアナログ音声信号入力／出力端子と接続します。 本機は、7系統の音声入力と4系統の音声出力を装備しています。

3 ビデオ入出力端子

映像機器のビデオ（映像）入力／出力端子と接続します。 本機は、4系統の映像入力と2系統の映像出力を装備しています。

4 Sビデオ入出力端子

映像機器のSビデオ信号入出力端子と接続します。 本機は、2系統の映像入力と1系統の映像出力を装備しています。

5 モニター用ビデオ（映像）出力端子

テレビやプロジェクターのビデオ入力端子やSビデオ入力端子に接続します。 本機は、ビデオ出力端子とSビデオ出力端子を各１系統装備しています。

6 サブウーファー用音声出力端子

パッシブサブウーファー用に使用するパワーアンプや、アクティブサブウーファーの音声入力端子に接続します。

7 プリアンプ音声出力端子（L、R、SL、SR、SB、C）

音声各チャンネルのプリアンプ出力端子です。外部パワーアンプを追加する場合に使用します。

8 6.1チャンネル音声入力端子

SACDマルチチャンネルプレーヤーやDVDオーディオプレーヤーのマルチチャンネル音声出力端子に接続します。

9 スピーカー出力端子

各チャンネル（フロントL、フロントR、サラウンドL、サラウンドR、センター、サラウンドバック）のスピーカーに接続します。

10 リモートコントロール入出力端子

他のマランツAV製品と組み合わせてシステムコントロールする場合に、組み合わせる製品のリモートコントロール入出力端子と接続します。

11 デジタル音声入力／出力端子

デジタル音声入力端子
DVDプレーヤーやCDプレーヤーなどのデジタルAV機器のデジタル音声出力端子に接続します。本機は、光2系統と同軸2系統のデジタル音声入力端子を装備しています。
デジタル音声出力端子
MDデッキやCDレコーダーなどのデジタル録音機器のデジタル音声出力端子に接続します。本機は、光1系統と同軸1系統のデジタル音声出力端子を装備しています。

12 電源コード

家庭用AC 100V（50/60Hz）のコンセントに電源プラグを挿し込みます。

万一の事故防止のため、本製品を電源コンセントの近くに置き、すぐに電源コンセントからプラグを抜けるようにしてください。

13 ACアウトレット

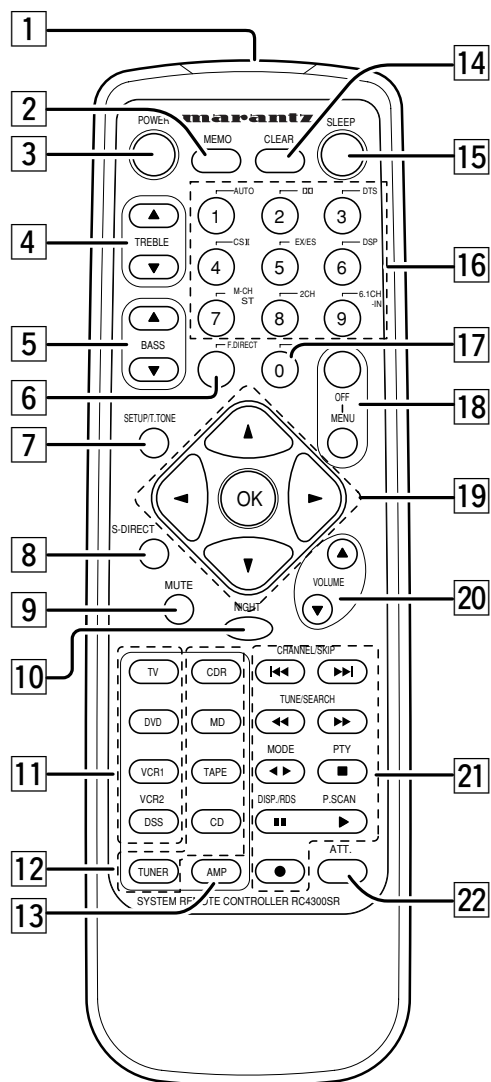
本機のACアウトレットから他のAV機器に電源を供給できます。本機は、SWITCHEDとUNSWITCHEDのACアウトレットを装備しています。

SWITCHED（スイッチド）
本機の電源 ON／スタンバイに連動し、電源供給をON／OFFします。消費電力が最大100Wまでの機器を接続できます。

UNSWITCHED（アンスイッチド）
本機の電源 ON／スタンバイ に関係なく、電源供給をします。 消費電力が最大100Wまでの機器を接続できます。

リモコンの各部名称と操作

操作方法

付属リモコンRC4300SRは、本機以外のマランツAV機器も操作できるシステムリモコンです。
POWERボタン、数字ボタン、コントロールボタン(PLAYボタンなど)は異なる入力ソースの機器に渡って共通に使用できます。
付属リモコンの入力切り替えボタンを押すと、選択した入力ソースの機器の操作が付属リモコンでできます。

1 リモートコントロール送信部
赤外線コントロール信号を発射します。操作する機器の受光部に向けてボタンを押してください。

2 MEMO(メモリー)ボタン
SR4300のチューナーに「AM/FM放送局の登録番号」や「放送局の名前」を入力する時にこのボタンを押します。

3 POWER(パワー)ボタン
AMP(アンプ)ボタンを押した後、このスイッチを押すと、SR4300の電源が入ります。もう一度押すと、SR4300は電源スタンバイ状態になり、STANDBYインジケーターが点灯します。

4 TREBLE(トレブル)▲/▼ ボタン
フロントチャンネル(L、R)音声の高音域を調整するときに使用します。

5 BASS(バス)▲/▼ ボタン
フロントチャンネル(L、R)音声の低音域を調整するときに使用します。

6 F.DIRECT(フレクエンシーダイレクト)ボタン
FMまたはAMの放送局をその周波数で直接選局するときに、このボタンを押します。

7 SETUP(セットアップ)/ T.TONE(Test Tone:テストトーン)ボタン
「テストトーン」機能は、各スピーカー間の出力レベル(音量)を調整するときに使用します。
SPEAKER LEVEL(スピーカーレベル)セットアップメニューを呼び出すには、AMP(アンプ)ボタンを押してから、このボタンを押します。
もう一度このボタンを押すと、ピンクノイズの発生を停止します。

8 S-DIRECT (Source Direct:ソースダイレクト) ボタン
このボタンを押すと、トーンコントロール回路などをバイパスする「ソースダイレクト」モードになります。

9 MUTE(ミュート)ボタン
このボタンを押すと、一時的に音声を消します。もう一度押すと、元の音量に戻ります。

10 NIGHT(ナイト)ボタン
このボタンを押すと、再生音のダイナミックレンジを押さえ、全体の音量を上げずに小さな音声を聞きやすくできます。夜間に映画ソフトなどをお楽しみいただく際に便利な機能です。
この機能は、ドルビーデジタルの対応ソフトで効果を発揮します。

11 映像機器系 入力切り替え/ファンクションボタン
映像機器ソースの選択ボタンです。ボタンを一度押すと、リモコンのファンクション(リモコンで操作できる映像機器)が切り替わり、2秒以内にもう一度同じボタンを押すとSR4300の入力が切り替わります。

12 音声機器系 入力切り替え/ファンクションボタン
音声機器ソースの選択ボタンです。ボタンを一度押すと、リモコンのファンクション(リモコンで操作できる映像機器)が切り替わり、2秒以内にもう一度同じボタンを押すとSR4300の入力が切り替わります。

13 AMP(アンプ)ボタン
SR4300のサラウンドモードを選択する前に、このボタンを押します。

14 CLEAR(クリア)ボタン
「AM/FM放送局の自動登録」や「登録した放送局の呼び出し」を途中でやめるとき、「登録した放送局」を消すときにこのボタンを押します。

15 SLEEP(スリープタイマー)ボタン
このボタンは「スリープタイマー」の設定に使用します。本体のボタンと同じ方法で操作します。

⑯ 数字／サラウンドモード ボタン

数字ボタン(1-9)
これらのボタンは、登録した放送局の呼び出しや、CDの曲番(トラックナンバー)の選択に使用します。
これらのボタンの機能は、選択しているファンクション(リモコンで操作できる映像機器)によって決まります。

サラウンドモードボタン(AMPモード選択時)
これらのボタンはサラウンドモードの選択に使用します。

ご注意
- M-CH STボタンを押すと、6-stereo(6チャンネル・ステレオ)モードになります。

⑰ 0 ／ A(アナログ)／D(デジタル)ボタン

数字ボタン(0)
このボタンは「0」を入力するときに使用します。

A(アナログ)／D(デジタル)ボタン(AMPモード選択時)
リモコンがAMP(アンプ)モードのとき、このボタンをアナログ入力とデジタル入力の切替えに使用します。

⑱ MENU(メニュー)ボタン、 MENU OFF(メニューオフ)ボタン

MENU(メニュー)ボタン
このボタンはメニュー機能に入るときに使用します。

MENU OFF(メニューオフ)ボタン
このボタンはメニュー機能から通常の表示に戻るときに使用します。

⑲ カーソルボタン(▲、▼、◄ 、►、OK)

これらのボタンはセットアップメニュー機能を操作するときに使用します。
◄：カーソルを左に移動します
►：カーソルを右に移動します
▲：カーソルを上に移動します
▼：カーソルを下に移動します
OK：セットアップメニューに入る、または設定を確定する

⑳ VOLUME(音量調整)▲ / ▼ボタン

これらのボタンは、全体の音量調整に使います。

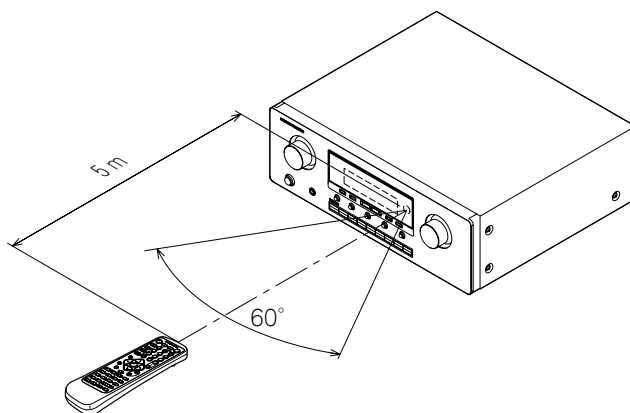
㉑ コントロールボタン

これらのボタンはDVDプレーヤーやCDプレーヤー、カセットデッキなどのマランツAV製品を操作するときに使用します。これらのボタンの機能は、選択したファンクションボタンによって決まります。

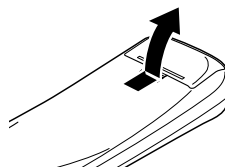
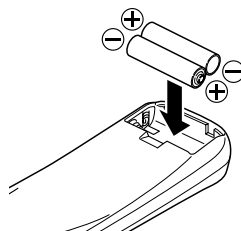
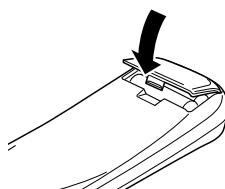
㉒ ATT(Attenuate：アッテネート)ボタン

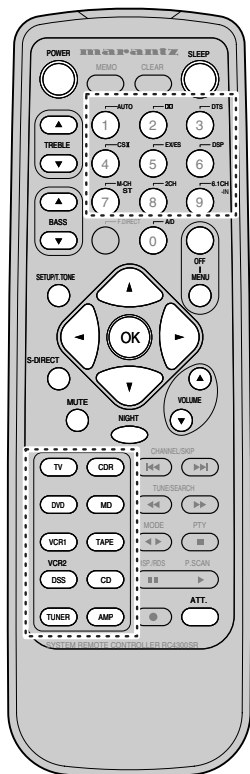
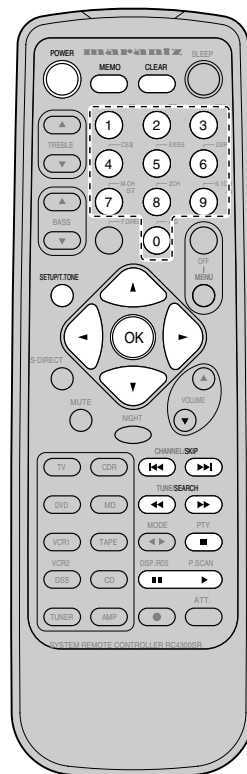
入力信号が大きく、音声が歪むときに、このボタンを押します。
“ATT”が表示され、アッテネート機能が動作し、入力レベルが減少します。
アッテネート機能はレックアウト出力信号に対しては無効です。

リモコンの動作範囲

本機SR4300と付属リモコンRC4300SRによる操作可能範囲は下図のように約 5 m(60°)以内です。
リモコンの操作はSR4300のリモートコントロール受光部に向けて行ってください。また、リモコンとSR4300の間に障害物がある場合、正常な動作ができない場合があります。

リモコンへの電池の装着

付属リモコンをご使用になる前に、単四形乾電池 2 本をリモコンに装着してください。
付属の乾電池はリモコンの動作確認用です。

1. リモコン裏面の電池フタのつまみを矢印の方向に押し、上に引き揚げる

2. 新しい単四形乾電池2本を、極性表示(＋：プラス と －：マイナス)に注意し、表示通りに正しく装着する

3. 電池ふたを元の位置にセットし、矢印の方向へ押して閉める

付属リモコンを使ってSR4300を操作する

付属リモコンRC4300SRを使用してSR4300を操作するには、入力切り替え／ファンクションボタンでAMP（アンプ）またはTUNER（チューナー）を選びます。
AMP（アンプ）モードとTUNER（モード）の詳細については以下を参照してください。

AMP（アンプ）モード

POWER	SR4300の電源ON／OFF
SLEEP*	スリープタイマー機能を設定
TREBLE ▲▼*	高音域の調整
BASS ▲▼*	低音域の調整
数字 1-8	サラウンドモードの選択
数字 9	6.1CH IN の選択
数字 0	アナログ入力とデジタル入力の切替え
MENU	セットアップメニューへ入る
MENU OFF	セットアップメニューから出る
SETUP/T.TONE	スピーカーレベルの設定用にテストトーンモードに入る
カーソル	セットアップメニューにおいて設定のためのカーソル移動
OK	セットアップメニューに入る
	セットアップメニューの設定確定
S-DIRECT	ソースダイレクトモードの選択
MUTE*	一時的に音量を減少
NIGHT*	ナイトモードをON／OFF
VOL ▲▼	全体の音量の調整
入力選択	再生ソース機器の選択
ATT*	入力レベルの減少

TUNER（チューナー）モード

MEMO	放送局の番号登録
CLEAR	入力の消去
数字 0-9	数字の入力
F.DIRECT	放送局の周波数を直接選択
CHANNEL/SKIP	登録した放送局の選択
TUNE/SEARCH	放送局を合わせる
MODE	オートステレオモードまたはモノラルモードの選択
P.SCAN	登録した放送局の自動選択
TUNER	FM／AMバンド切替え

* 印の付いたボタンは、本機の入力切替がどの 状態でも有効です。

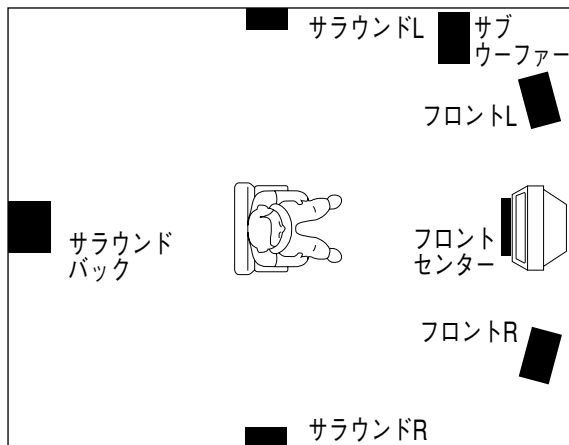
各機器との接続

スピーカーの配置および接続

スピーカーの配置

本機における理想的なサラウンド再生スピーカーシステムは　フロントL/R、センター、サラウンドL/R、サラウンドバック、サブウーファーの合計7チャンネルです。
しかし、サラウンド再生に最低限必要なスピカーシステムはフロントL/R、サラウンドL/Rです。
本機では使用するスピーカーの数や位置、また低音域の出力特性にあわせて設定をおこないます。
（15ページ　SPEAKER SETUP（スピーカーの設定）の項参照）

配置のポイント

スピーカーの配置は、実際、部屋の大きさなどによって違いますが、ここでは各スピーカーの基本的配置例と配置のポイントを説明します。

フロントL/Rスピーカー
リスニングポジションから見てL とR のスピーカーが45 度〜60 度の角度を持つように設置することを推奨します。

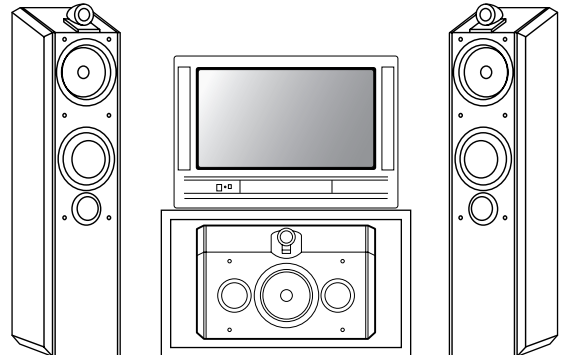
センタースピーカー
フロントL/R スピーカーと前面を揃えるか、またはわずかに後方にずらして設置します。

サラウンドL/Rスピーカー
座席の真横から手前に設置します。座席位置よりも後方には置きません。

サラウンドバックスピーカー
座席の後ろに設置します。

サブウーファー
低音の効果を最大限に得るために利用することをお勧めします。サブウーファーは低音域のみを扱う為、部屋の中であればどこに配置しても大丈夫です。

高さ

フロントスピーカー（L、R、センター）
3 つのフロントスピーカーの中・高域用ユニットはできる限り同じ高さに揃えます。
これは、センタースピーカーをテレビセットの真上、または真下に設置することを意味します。
このような場合、防磁型のセンタースピーカーを使う必要があります。

サラウンドスピーカー
場所が許す限り、リスナーより70 センチから1 メートル程上方に設置します。こうすることで音源定位を不自然に際立たせず、より包み込むようなサラウンド感を実現します。

スピーカーの接続

サラウンド
バック

サラウンドR

サラウンドL

アンプ内蔵
サブウーファー

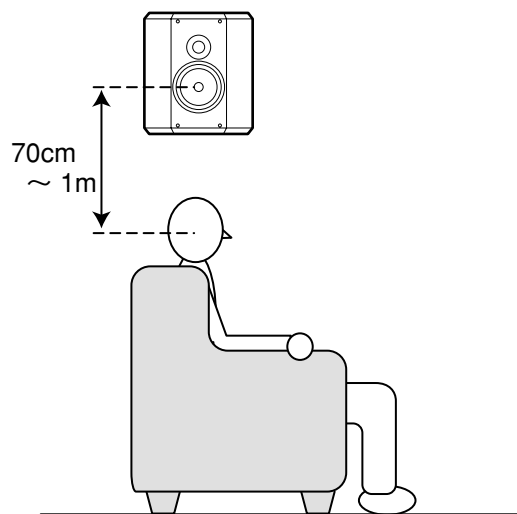
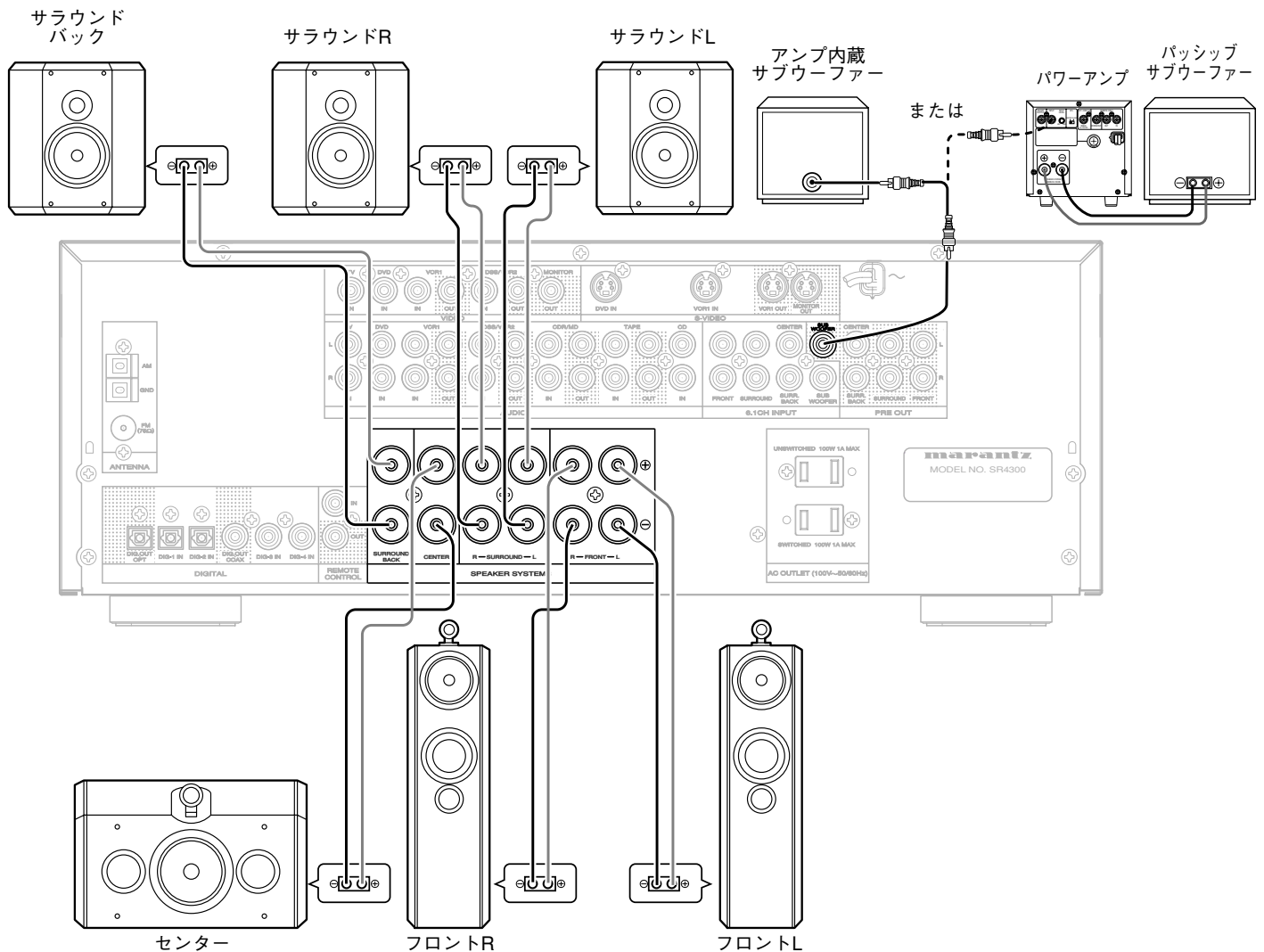
または

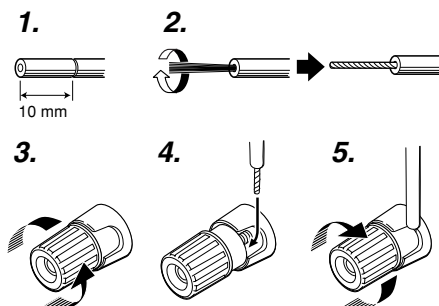
パワーアンプ

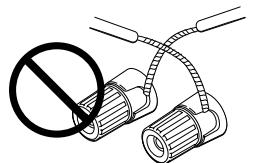
パッシッブ
サブウーファー

センター

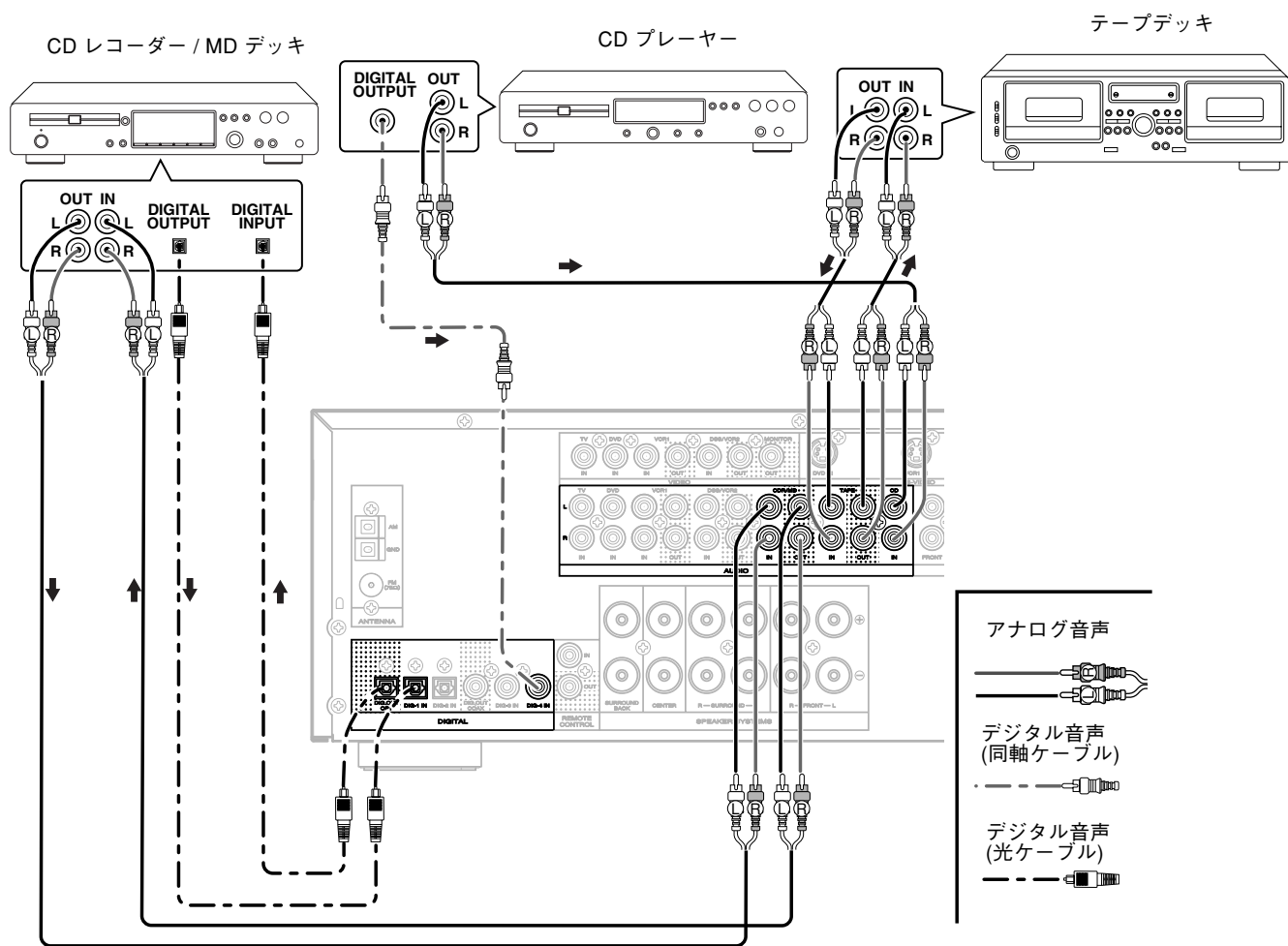
フロントR

フロントL

スピーカーコードの接続

1. スピーカーコードの皮膜を約10mm取り除く
2. ショートを防止するため裸のコード先端をきつくよじる
3. スピーカー端子を左回しに回して、端子を緩める
4. スピーカー端子脇にある穴にスピーカーコードの裸の部分を挿入する
5. スピーカー端子を右回しに回して、端子を締める

ご注意

- 本機後面に表記されているインピーダンス仕様のスピーカーを必ずご使用ください。
- 回路への損害を防止するため、裸のスピーカーコード同士を接触したり、本機の金属部分に接触させたりしないでください。
- 感電の恐れがあるので、電源がONのときはスピーカー端子に触れないでください。
- １つのスピーカー端子に複数のスピーカーコードを接続しないでください。本機に損害を与える恐れがあります。
- スピーカー端子への接続は極性を間違えずに行ってください。間違えた場合、信号の位相は反転し、再生される音楽は不自然になります。

サブウーファーの接続

パワード（パワーアンプ内蔵）サブウーファーとの接続は、本機のサブウーファー用音声出力端子を使用してください。
パッシブタイプのサブウーファーをご使用の場合は、本機のサブウーファー用音声出力端子とモノラルパワーアンプを接続し、そのモノラルパワーアンプとパッシブタイプのサブウーファーを接続してください。
詳細な接続は、ご使用のサブウーファーの取扱説明書をお読みください。

音声機器との接続

TAPE出力端子とCD-R/MD出力端子からの音声出力信号は、現在選択されている音声ソースです。

ご注意

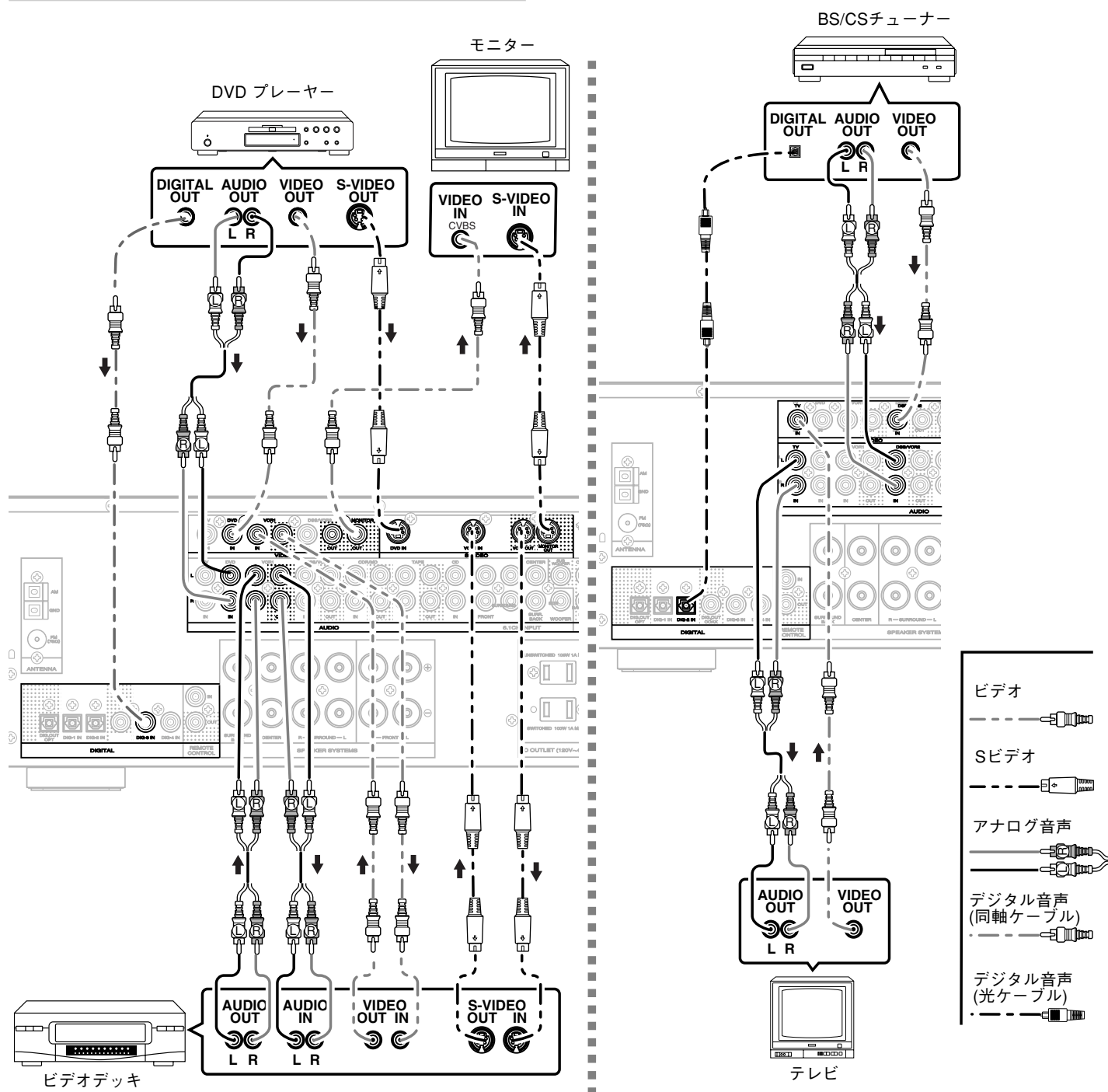
- 全ての接続が完全に終わるまで、本機や他の機器の電源コードを電源コンセントに差し込まないでください。
- 接続コードのプラグは確実に接続端子に挿入してください。不完全な接続は、雑音の原因となります。
- レフト(左)チャンネルとライト(右)チャンネルを正しく接続してください。赤い端子はライト(右)チャンネル、白い端子はレフト(左)チャンネルです。
- 入力と出力は正しく接続してください。
- 本機と接続するそれぞれの機器については、それぞれの取扱説明書を参考にしてください。
- 音声／映像接続ケーブルと電源コードやスピーカーコードは束ねないでください。束ねると、結果としてハムやその他の雑音を発生します。

デジタル音声機器との接続

- 本機の後面には、同軸端子 2 系統と光端子 2 系統、計 4 系統のデジタル入力があります。
  これらの端子を使用して、CDプレーヤーやDVDプレーヤーなどのデジタル音声機器からPCM信号、Dolby DigitalやDTSのビットストリーム信号を入力できます。
- 本機の後面には、同軸端子1系統と光端子1系統、計2系統のデジタル出力があります。
  これらの端子は、CDレコーダーやMDデッキなどのデジタル録音機器との接続ができます。
- DVDプレーヤーや、その他デジタルソース機器のデジタル音声フォーマットの設定を行ってください。
  デジタル入力端子に接続される機器については、それぞれの機器の取扱説明書を参照してください。
- DIG-1および2の入力端子には光ケーブルをご使用ください。 DIG-3および4の入力端子にはデジタル音声用または映像用の75Ω同軸ケーブルをご使用ください。
- あなたの機器に応じて、それぞれのデジタル入出力端子に対して入力を指定することができます。（14ページ参照）

ご注意

- 本機はDolby Digital 用 RF入力端子を装備していません。ビデオディスクプレーヤーのDolby Digital RF出力を使用する場合は、外付けのRFデモジュレーターをご使用ください。
- デジタルおよびアナログそれぞれの音声端子は独立しています。デジタル端子とアナログ端子に入力された信号は、対応するデジタル端子とアナログ端子にそれぞれ出力されます。

映像機器との接続

ビデオ、S-ビデオ端子

本機の後面には2つのタイプのビデオ(映像)端子があります。

ビデオ端子

ビデオ端子の映像信号は従来の同軸映像信号です。

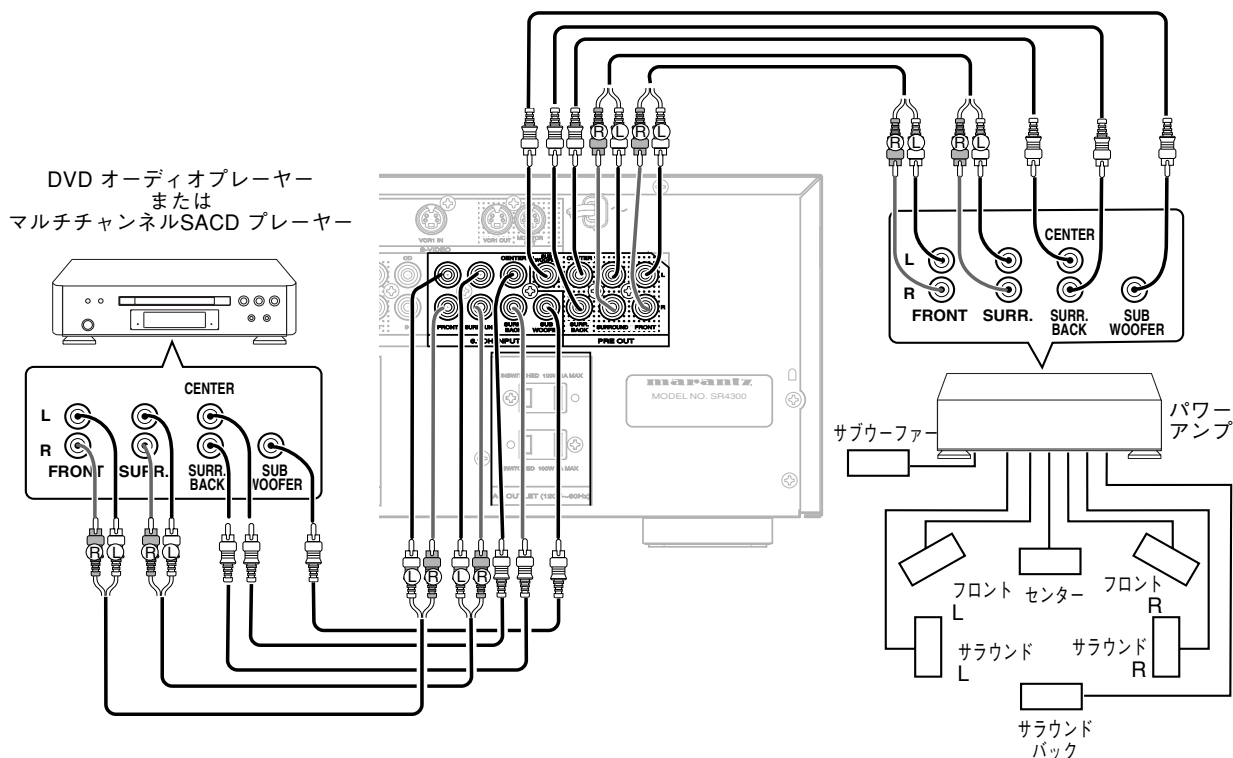
S-ビデオ端子

S-ビデオ端子用の映像信号は、輝度信号(Y)と色信号(C)に分離しています。S-ビデオ信号は高品質の色再現を可能にします。ご使用の映像機器がS-ビデオ出力を装備しているのであれば、S-ビデオ出力の使用をお勧めします。

本機のS-ビデオ入力端子とご使用の映像機器のS-ビデオ出力端子を接続してください。

ご注意

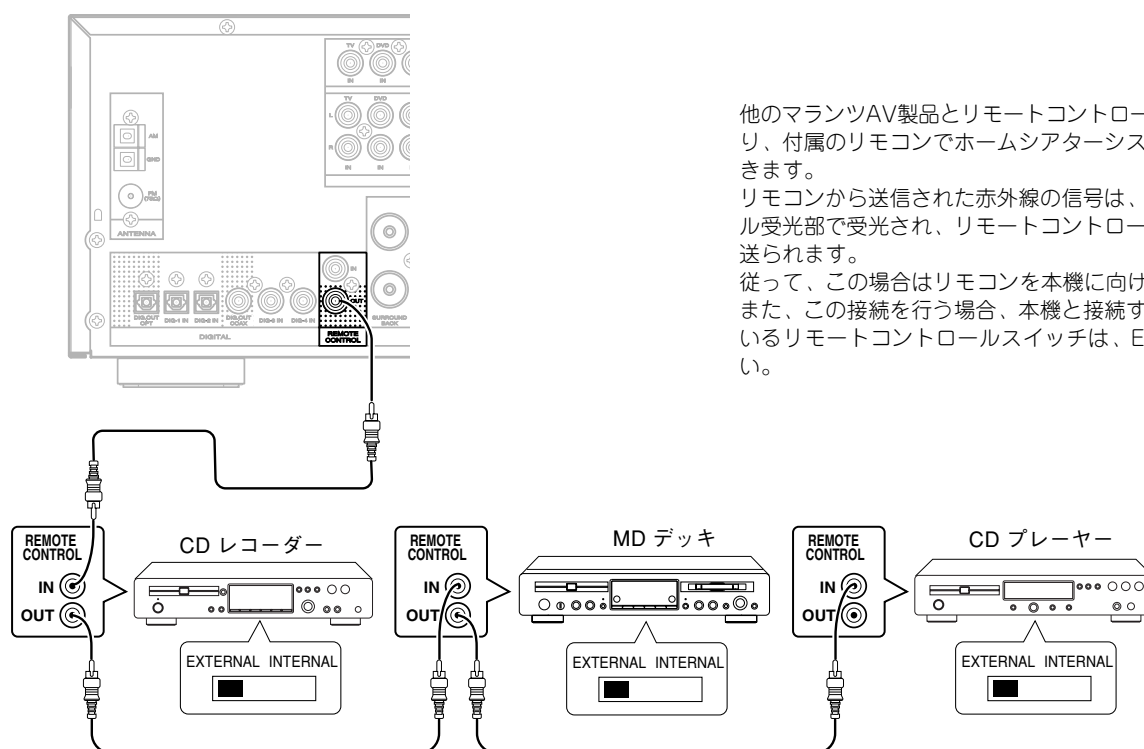
- レフト(左)チャンネルとライト(右)チャンネルを正しく接続してください。赤い端子はライト(右)チャンネル、白い端子はレフト(左)チャンネルです。
- 入力と出力は正しく接続してください。
- ビデオおよびS-ビデオそれぞれの映像端子は独立しています。ビデオ(同軸)端子とS-ビデオ端子に入力された信号は、対応するビデオ(同軸)端子とS-ビデオ端子にそれぞれ出力されます。
- DVDプレーヤーや、その他デジタルソース機器のデジタル音声フォーマットの設定を行ってください。
  デジタル入力端子に接続されるそれぞれの機器については、取扱説明書を参照してください。
- 本機はDolby Digital 用 RF入力端子を装備していません。ビデオディスクプレーヤーのDolby Digital RF出力を使用する場合は、外付けのRFデモジュレーターをご使用ください。

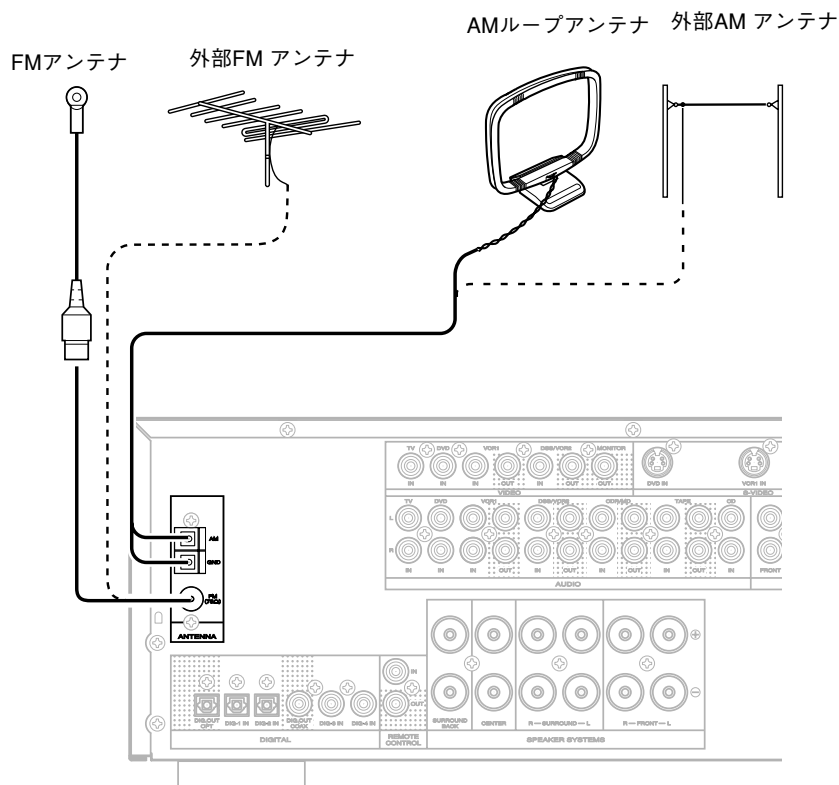
発展させた接続

マルチチャンネルオーディオ機器との接続

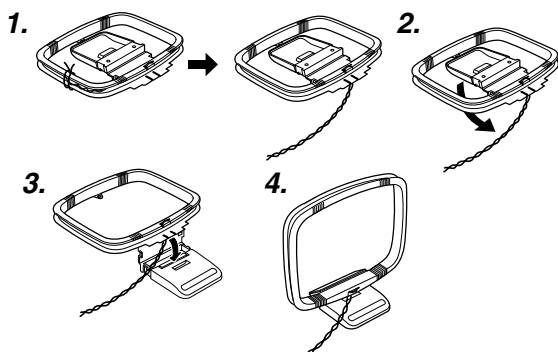
6.1CH INPUT端子は、SACDマルチチャンネルプレーヤー、DVDオーディオプレーヤーまたは外付けのデコーダーのようなマルチチャンネルオーディオソース用の入力端子です。
これらの端子を使用する場合には、6.1CH INPUTに切替え、セットアップメインメニューを使用して、6.1CH入力レベルを設定してください。

単体パワーアンプとの接続

単体パワーアンプをシステムに追加することで、更にホームシアターの臨場感を高めることができます。
プリアンプ音声出力端子をパワーアンプと接続し、それぞれのスピーカーと、それに対応するパワーアンプを接続してください。

リモートコントロール接続

他のマランツAV製品とリモートコントロール端子を接続することにより、付属のリモコンでホームシアターシステムを集中コントロールできます。
リモコンから送信された赤外線の信号は、本機のリモートコントロール受光部で受光され、リモートコントロール端子を通して他の機器に送られます。
従って、この場合はリモコンを本機に向けて操作してください。
また、この接続を行う場合、本機と接続する機器の後面に装備されているリモートコントロールスイッチは、EXTERNALに設定して下さい。

アンテナの接続

付属AMループアンテナの組み立て

1. ビニールのひもを外して、接続線を引き出す
2. アンテナスタンドの部分を反対に曲げる
3. アンテナスタンドの穴にループアンテナ部を取り付ける
4. 安定した場所にアンテナを置く

付属アンテナの接続

付属FMアンテナの接続

付属のFMアンテナは室内用です。使用中、アンテナを伸ばし、クリアな信号が受信できるまでいろいろな方向に動かしてください。
音声の歪みが最も小さな位置で、ピンなどを使用して固定してください。
受信状態が不十分な場合、外部アンテナで改善できます。

付属AMアンテナの接続

付属のAMループアンテナは室内用です。音声が最も良く聴き取れる方向と位置でアンテナを固定してください。
アンテナは、SR4300、テレビ、スピーカーコード、電源コードから出来るだけ離して置いてください。
受信状態が不十分な場合、外部アンテナで改善できます。

1. AMアンテナ端子のレバーを押したままにする
2. アンテナ端子に裸のアンテナ線を差し込む
3. レバーを離す

FM外部アンテナ接続時のご注意

- ネオンサインや交通量の多い道路などのノイズ源からアンテナを離してください。
- 電線の近くにアンテナを置かないでください。電線や変圧器から離してください。
- 火事や感電を避けるため、大地(グランド)に接地してください。

AM外部アンテナの接続

外部アンテナを使用すると、良好な受信状態でお楽しみいただけます。

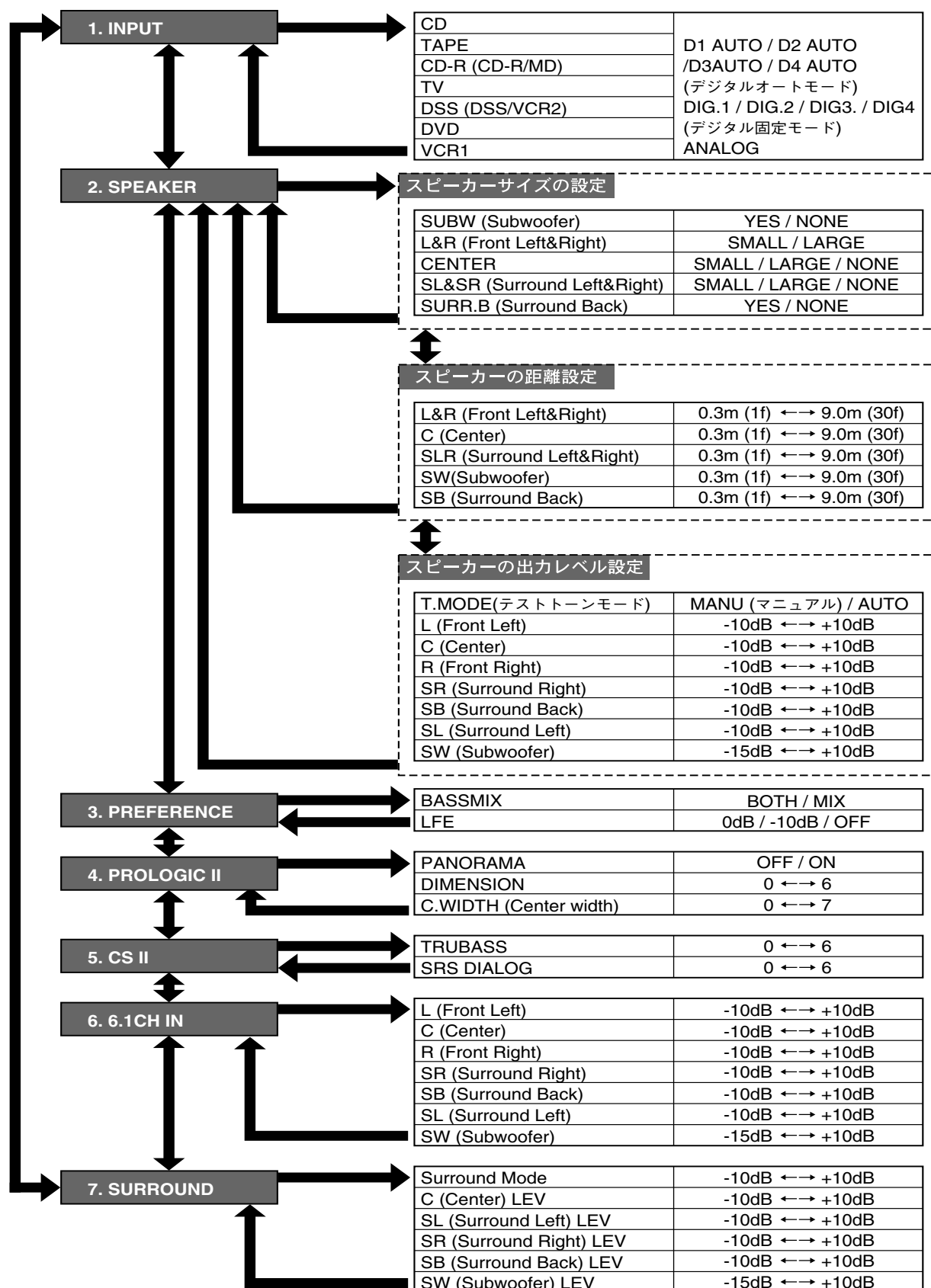
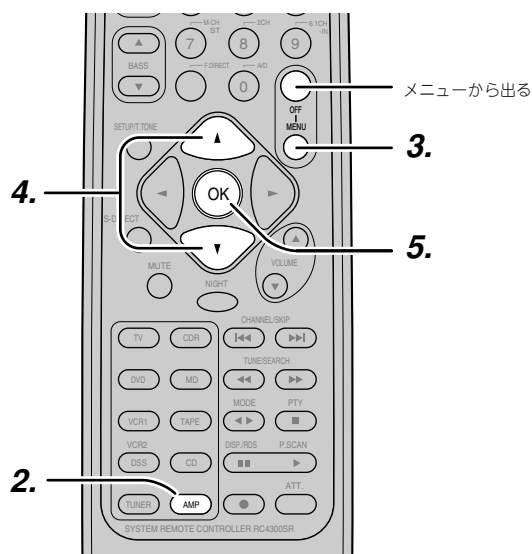
ご注意

- 外部アンテナを使用する場合でも、AMループアンテナは外さないでください。
- 火事や感電を避けるため、大地(グランド)に接地してください。

セットアップ

全ての機器の接続が終了した後、初期設定を行ってください。

セットアップメニューシステム

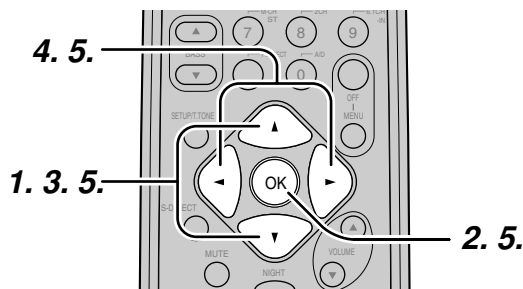
SR4300はリモコンのカーソルボタンとOKボタンの操作によって、様々な設定が可能なセットアップメニューシステムを装備しています。
SR4300本体前面 表示部には、セットアップメニューシステムによる設定内容が表示されます。

セットアップメニューの希望するメニュー項目に入る

1. 本体の電源をONにします。
2. ***AMP*** ボタンを押して、アンプモードに設定します。
3. ***MENU*** ボタンまたは***OK*** ボタンを押して、セットアップメニューに入ります。
4. ▲または▼のカーソルボタンを押して、メインメニューの項目を選びます。
5. ***OK*** ボタンまたは***MENU*** ボタンを押して、希望するメニュー項目に入ります。

全てのセットアップを完了した後、***MENU OFF*** ボタンを押してセットアップメニューから出ます。

1.INPUT SETUP(入力の設定)

本機に装備されている4系統のデジタル入力は、希望する入力ソースに割り当てることができます。
INPUT SETUP(入力の設定)には、以下の9種類があります。

- **D1AUTO 〜 D4AUTO ：デジタルオートモード**
  選択している入力源からの入力信号がデジタル信号の場合、本機は自動的にデジタル入力を選びます。
- **DIG.1 〜 DIG.4 ： デジタル固定モード**
  選択している入力源からの入力信号に関わらず、本機はデジタル入力を選びます。
- **ANA ： アナログモード**

選択している入力源からの入力信号に関わらず、本機はアナログ入力を選びます。

1. ▲または▼のカーソルボタンを使用して、セットアップメインメニューの中から「1. INPUT」を選びます。
2. ***OK*** ボタンを押して、メニューに入ります。
3. ▲または▼のカーソルボタンを押して、入力ソースを選びます。
4. ◄または►のカーソルボタンを押して、入力ファンクションを選びます。

   入力ソースに対して、「DxAUTO(デジタルオートモード)」、「DIG.x(デジタル固定モード)」または「ANA(アナログモード)」を選びます。
5. これらのセットアップ(設定)が完了したら、▲または▼のカーソルボタンを押して「TO MAIN MENU」を選び、***OK*** ボタンを押すと、セットアップメインメニューに戻ります。
   - ◄または►のカーソルボタンを押して「EXIT」を選び、***OK*** ボタンを押すと、セットアップメニューから出ます。

ご注意

- DTS-LDやDTS-CDの再生中は、このセットアップを利用できません。アナログ入力から発生する雑音を防ぐためです。
- 「DxAUTO(デジタルオートモード)」が選択され、DVD、CDまたはLDが再生中に早送りされた場合、デジタル入力信号が途切れてアナログ入力に切り替わることがあります。このような場合、デジタル固定モードに設定してください。
- 同じデジタル入力ファンクションは設定できません。このような場合、前の設定はアナログに設定されます。同じデジタル入力番号はデジタルオートモードとデジタル固定モードに設定できません。例えば、同時にD1AUTOとDIG.1は設定できません。

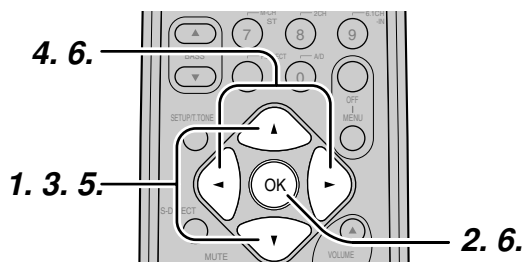
2.SPEAKER SETUP（スピーカーの設定）

SR4300を設置した後、全ての機器を接続し、スピーカーの配置位置を決定し、ご使用の部屋の環境やスピーカーの配置位置に対し、聴感上最適なスピーカーセットアップメニューの設定を行ってください。設定を行う前に、以下の説明をよく読んでから行ってください。

スピーカーサイズの設定

スピーカーのサイズをメニューを使って設定する時は、以下の項目を参照してください。

LARGE: 充分な低音再生能力をもった全帯域対応の大型のスピーカーを使用する場合に選んでください。再生信号の全帯域をそのままスピーカーへ出力します。

SMALL: 低音が出にくい小型のスピーカーを使用する場合に選んでください。再生信号の80Hz以下の低音域は、サブウーファー出力端子へ振り分けて出力されます。
（SUBWOOFER：NONEに設定した場合はフロントL/Rチャンネルへ振り分けて出力されます）

1. ▲または▼のカーソルボタンを使用して、セットアップメインメニューの中から「2.SPEAKER」を選びます。

2. ***OK*** ボタンを押して、メニューに入ります。

3. ▲または▼のカーソルボタンを押して、スピーカーを選びます。

4. ◀ または ▶ のカーソルボタンを押して、スピーカーのサイズを選びます。

5. これらのセットアップ（設定）が完了したら、▲または▼のカーソルボタンを押して「NEXT」を選びます。

6. ***OK*** ボタンを押すと、次の「Speaker Distance（スピーカーまでの距離）」のメニューに入ります。
- ◀ または ▶ のカーソルボタンを押して「EXIT」を選び、***OK*** ボタンを押すと、セットアップメニューから出ます。
- ◀ または ▶ のカーソルボタンを押して、「TO MAIN MENU（メインメニューへ）」を選び、***OK*** ボタンを押すと、セットアップメインメニューに戻ることができます。

2.SPEAKER → スピーカーサイズ設定

スピーカー	サイズ	
SUBW	YES	サブウーファーが接続されている時に選んでください。
	NONE	サブウーファーが接続されていない時に選んでください。
L & R	SMALL	フロントスピーカーが小型の時に選んでください。
	LARGE	フロントスピーカーが大型の時に選んでください。
CENTER	SMALL	センタースピーカーが小型の時に選んでください。
	LARGE	センタースピーカーが大型の時に選んでください。
	NONE	センタースピーカーが接続されていない時に選んでください。
SL & SR	SMALL	サラウンドスピーカーが小型の時に選んでください。
	LARGE	サラウンドスピーカーが大型の時に選んでください。
	NONE	サラウンドスピーカーが接続されていない時に選んでください。
SURR.B	YES	サラウンドバックスピーカーが接続されている時に選んでください。
	NONE	サラウンドバックスピーカーが接続されていない時に選んでください。

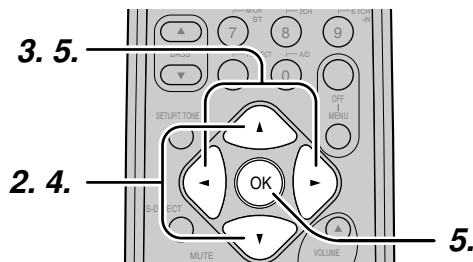
NEXT → EXIT ↔ TO MAIN MENU

NEXT → SPEAKER DISTANCE（スピーカーの距離）設定へ

EXIT → SETUP MENU から出る

TO MAIN MENU → MAIN MENU へ戻る

SPEAKER DISTANCE（スピーカーまでの距離の設定）

このセットアップ（設定）では、リスニングポジションから各スピーカーの距離を設定します。
ここで設定した距離に従い、各スピーカーからの音声の到達時間が同一になるようにディレイタイムが設定されます。

1. 前のメニュー「Speaker Size（スピーカーのサイズ）」セットアップから「Speaker Distance（スピーカーまでの距離）」セットアップに入ります。
2. ▲または▼のカーソルボタンを押して各スピーカーを選びます。
3. ◀または▶のカーソルボタンを押して、リスニングポジションから各スピーカーへの距離を設定します。
4. 距離の設定を完了したら、▲または▼のカーソルボタンを押して「NEXT（次）」を選びます。
5. ***OK*** ボタンを押して、次のメニュー「Speaker Level（スピーカーの出力レベル）」セットアップに入ります。

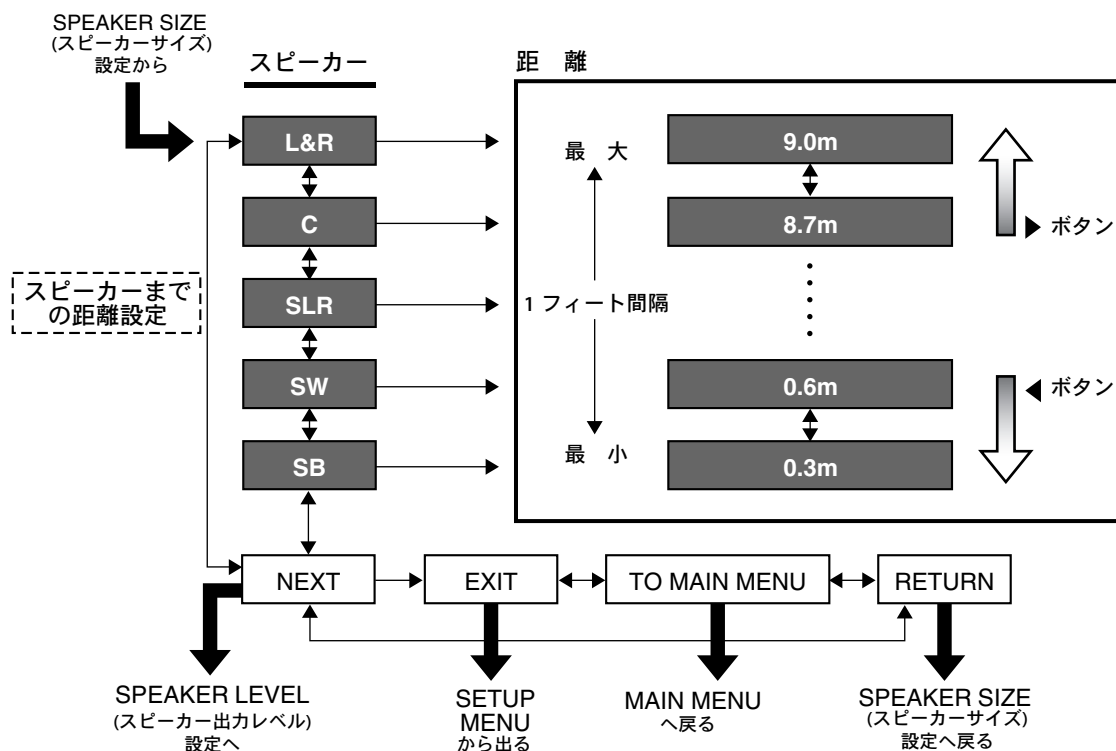
または、◀/▶のカーソルボタンを使い、以下のメニューを選びます。

- 「EXIT（出る）」：セットアップメニューから出る
- 「TO MAIN MENU（メインメニューへ）」：セットアップメインメニューに戻る
- 「RETURN（戻る）」：「Speaker Distance（スピーカーまでの距離）」に戻る

それから***OK*** ボタンを押すと、選んだメニューが実行されます。

L&R： フロントレフトとライトのスピーカーからリスニングポジションまでの距離を0.3mから9mまで0.3m間隔で設定する
C： センタースピーカーからリスニングポジションまでの距離を0.3mから9mまで0.3m間隔で設定する
SLR： サラウンドレフトとライトのスピーカーからリスニングポジションまでの距離を0.3mから9mまで0.3m間隔で設定する
SW： サブウーファーからリスニングポジションまでの距離を0.3mから9mまで0.3m間隔で設定する
SB： サラウンドバックのスピーカーからリスニングポジションまでの距離を0.3mから9mまで0.3m間隔で設定する

ご注意

- Speaker Size（スピーカーサイズ）メニューで「NONE」に設定したチャンネルのスピーカーは表示されません。

SPEAKER LEVEL（スピーカーの出力レベル）

このセットアップ（設定）では、リスニングポジションにおいて各スピーカーからの音量が全て同じに聞こえるように、テストノイズ信号を用いて各スピーカーの出力レベルを設定します。

ご注意

- 6.1チャンネル入力モードやS-Direct（ソースダイレクト）モードでは、この設定はできません

TEST（テスト・トーン）モード：◄ または ►のカーソルボタンでテストトーンの発生モードを「MANU（マニュアル：手動）」または「AUTO（オート：自動）」に選びます

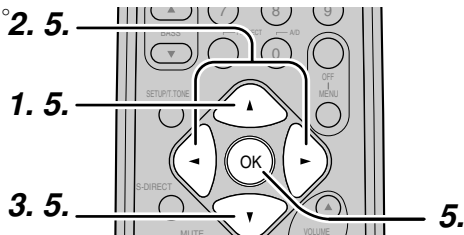
「AUTO（自動）」を選んだとき

▼ ボタンを押し、「AUTO（自動）」を選ぶと、テストトーンの出力は、L（フロントレフト）→C（センター）→R（フロントライト）→SR（サラウンドライト）→SB（サラウンドバック）→SL（サラウンドレフト）→SW（サブウーファー）→L（フロントレフト）の順番で、各チャンネル2秒間隔で循環します。

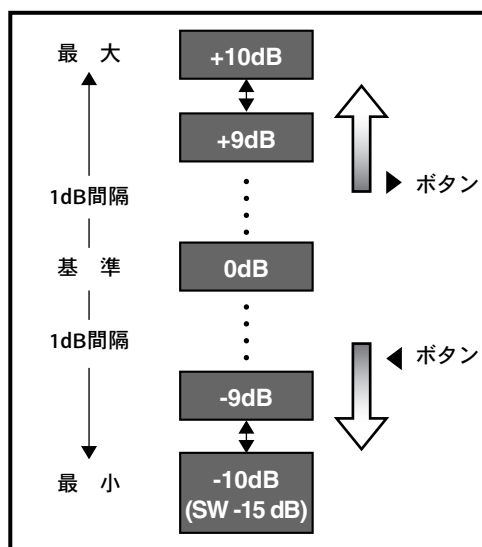
◄ または ► のカーソルボタンを使って、スピーカーからのノイズの音声レベルを調整し、全てのスピーカーに対して同じレベルにします。

- ***OK*** ボタンを押して、「TO MAIN MENU（メインメニューへ）」を選び、もう一度***OK*** ボタンを押すと、セットアップメインメニューに戻ることができます。
- ▲ または ▼ のカーソルボタンを押して、「EXIT（出る）」を選び、***OK*** ボタンを押すと、セットアップメニューを出ます。
- ◄ または ► のカーソルボタンを押して、「RETURN（戻る）」を選び、***OK*** ボタンを押すと、前のメニュー「SPEAKER DISTANCE（スピーカーまでの距離）」セットアップに戻ります。

「MANU（手動）」を選んだとき

「MANU（手動）」を選ぶと、各スピーカーの出力レベルを次のように調整します。

1. ▲ または ▼ のカーソルボタンを押して「T.MODE」メニューで「MANU（マニュアル：手動）」を選ぶとき、本機はフロントレフトスピーカーからピンクノイズを出力します。

このときマスターボリュームの希望するレベルを調整します。このノイズのレベルを覚えて、▼ のカーソルボタンを押します。本機はセンタースピーカーからピンクノイズを出力します。

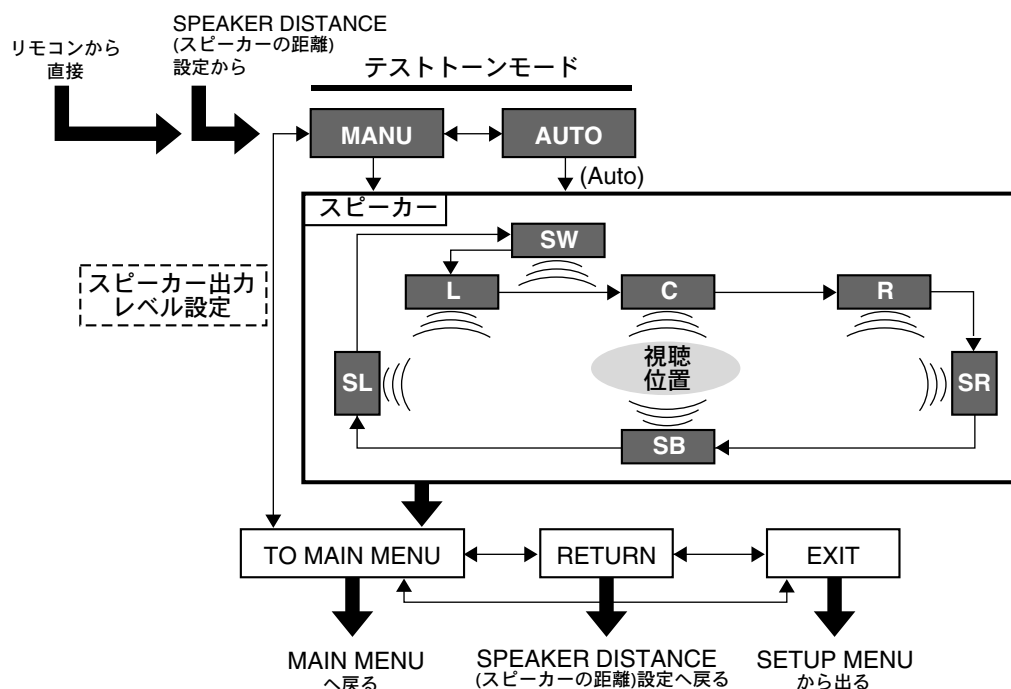
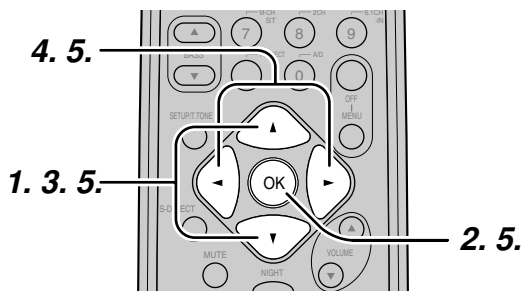
2. ◄ または ► のカーソルボタンを使ってフロントレフトスピーカーと同じレベルにセンタースピーカーからのノイズの音量レベルを調整します（－10から＋10dBの間を1dB間隔で調整できます）。

3. ▼ のカーソルボタンを再び押します。本機はフロントライトスピーカーからピンクノイズを出力します。

4. 全てのスピーカーが同じ音量レベルになるまで、フロントライトとその他のスピーカーに対しても***2.***と***3.***を繰り返します。

5. ***OK*** ボタンを押して、「TO MAIN MENU（メインメニューへ）」を選び、もう一度***OK*** ボタンを押すと、セットアップメインメニューに戻ることができます。

- ▲ または ▼ のカーソルボタンを押して、「EXIT（出る）」を選び、***OK*** ボタンを押すと、セットアップメニューを出ます。
- ◄ または ►のカーソルボタンを押して、「RETURN（戻る）」を選び、***OK*** ボタンを押すと、前のメニュー「SPEAKER DISTANCE（スピーカーまでの距離）」セットアップに戻ります。

ご注意

- Speaker Size（スピーカーのサイズ）セットアップメニューで「NONE」を選ばれたスピーカーは表示されません。
- 各チャンネルに対するセットアップ（設定）レベルは全てのサラウンドモードにおいて再生されるよう記憶されています。
- 6.1チャンネル入力ソースに対してスピーカーレベルを調整するには、6.1CH Level Inputセットアップメニューを使用して下さい。

3. PREFERENCE

1. ▲ または ▼ のカーソルボタンでセットアップメインメニューの「3. PREFERENCE」を選びます。
2. **OK** ボタンを押します。
3. ▲または▼のカーソルボタンで希望する項目を選びます。
4. ◄ または ► のカーソルボタンで調整します。
5. ▲または▼のカーソルボタンを押して、「TO MAIN MENU（メインメニューへ）」を選び、**OK** ボタンを押すと、セットアップメインメニューに戻ることができます。

   または、◄または►のカーソルボタンを押して、「EXIT（出る）」を選び、**OK** ボタンを押すと、セットアップメニューから出ます。

BASS MIX（バスミックス）

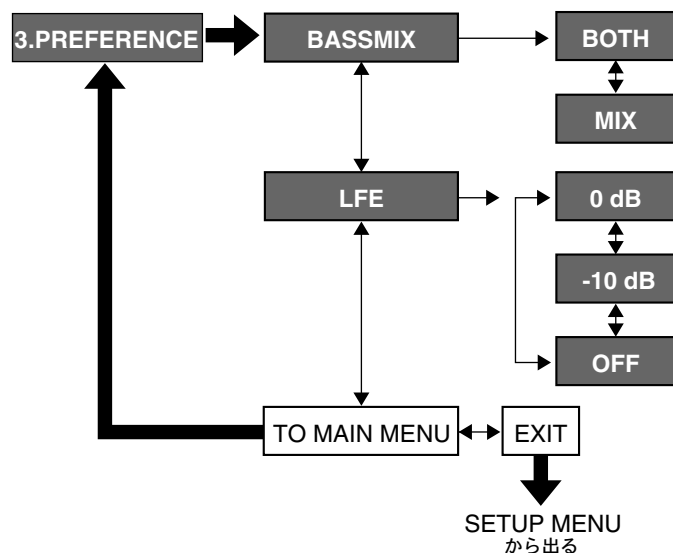
- BASS MIX（バスミックス）の設定は、フロントのスピーカーが「LARGE」に設定され、ステレオ再生時においてサブウーファーが「YES」に設定されているときにだけ有効となります。
- 「BOTH」が選ばれたとき、「LARGE」の低域周波数信号はそれらのチャンネルとサブウーファーから同時に出力されます。
  部屋のサイズや形によって、低域周波数の実際の音量が不足する場合にこの機能を使用しますと低域の周波数は部屋のいたるところにより均一に広がります。
- 「MIX」を選択すると、各チャンネルのスピーカーサイズに従ってサブウーファーからの出力が決まります。フロントスピーカーが「LARGE」に設定されている場合、サブウーファーチャンネルから再生される低域成分はドルビーデジタルやDTS処理された信号に含まれているLFE信号のみとなります。

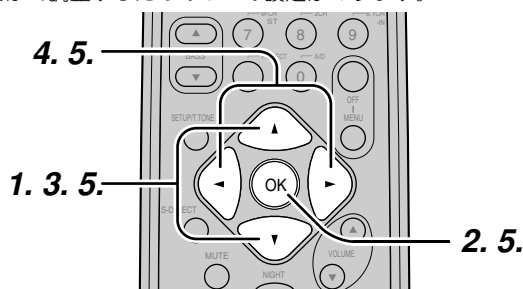
ご注意

- フロントスピーカーが「SMALL」に設定されている場合、BASS MIX（バスミックス）設定は「MIX」に固定されます。この時、BASSMIX=＊＊＊ と表示します。

LFE（Low Frequency Effect）

- Dolby Digital信号やDTS信号に含まれるLFE信号の出力レベルを選びます。

  ◄ または ► のカーソルボタンで0dB、-10dBまたはOFFのいずれかを選びます。

4. PLⅡ（PRO LOGICⅡ：プロロジックⅡ）

このモードにおいて、本機は以下の通り、プロロジックⅡにおける音場を細かく調整するための3つの設定があります。

1. ▲ または ▼ のカーソルボタンでセットアップメインメニューの「4.PRO LOGICⅡ」を選びます。
2. **OK** ボタンを押して、メニューに入ります。
3. ▲または▼のカーソルボタンを押して、希望する項目を選びます。
4. ◄ または ► のカーソルボタンを押して、モードまたはレベルの設定を選びます。
5. ▲または▼のカーソルボタンを押して、「TO MAIN MENU（メインメニューへ）」を選び、**OK** ボタンを押すと、セットアップメインメニューに戻ることができます。
   - ◄または►のカーソルボタンを押して、「EXIT（出る）」を選び、**OK** ボタンを押すと、セットアップメニューから出ます。

PANORAMA

本機能をONにするとフロントの音場を左右に大きく回り込ませ、サラウンドチャンネルに繋げるような印象になります。
▲ または ▼ のカーソルボタンでPANORAMAモードONまたはOFFを選びます。

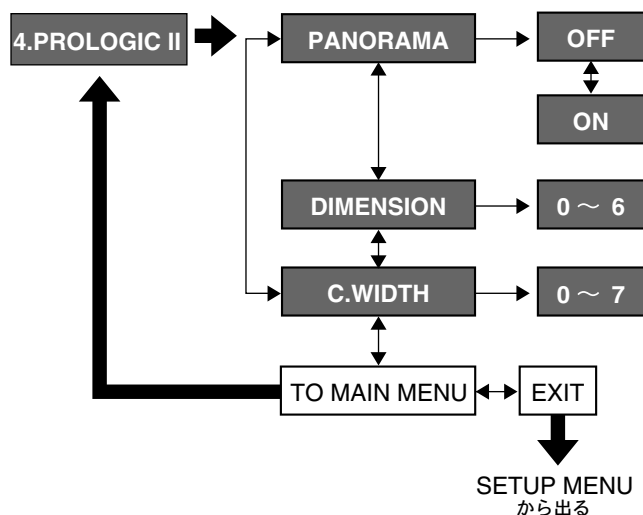
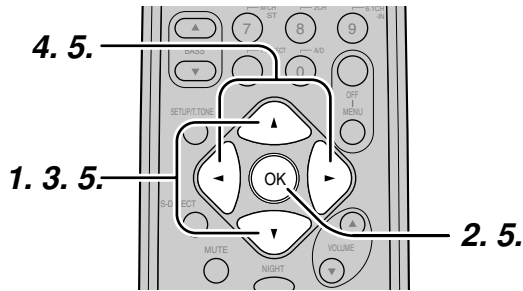
DIMENSION

フロントとサラウンドのレベル差を調整する機能です。
入力ソースによってはフロントが強く出るもの、サラウンドが強く出るもの、と多様になるので、この機能で好みのバランスを得ることができます。
◄ または ► のカーソルボタンで0から6まで7段階でDIMENSIONを設定できます。

C（Center）WIDTH

センターチャンネルの成分を、徐々にフロントL／Rのスピーカーに振り分ける機能です。
センター成分を振り分けることで、スピーカー間の音色の不一致を緩和させることができます。
◄ または ► のカーソルボタンで0から7まで8段階で設定できます。
SPEAKER SIZE（スピーカーのサイズ）セットアップでセンタースピーカーに対して「NONE」を選択していると、この設定は表示されません。

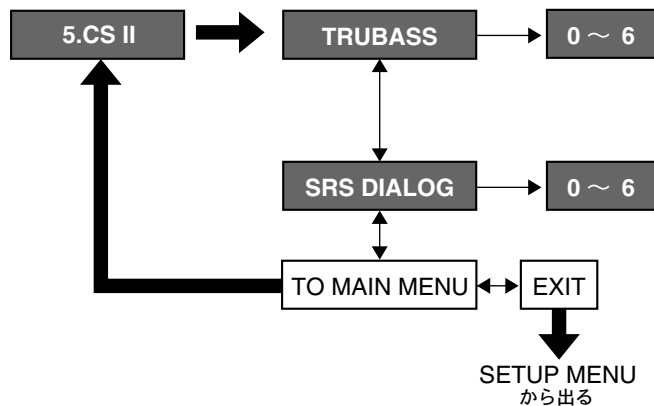
ご注意

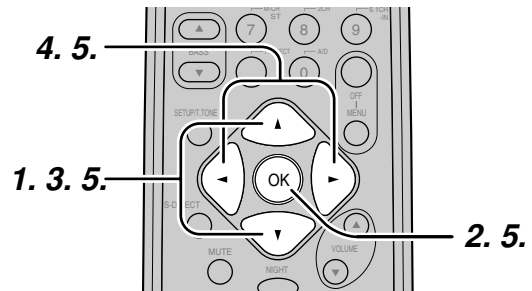
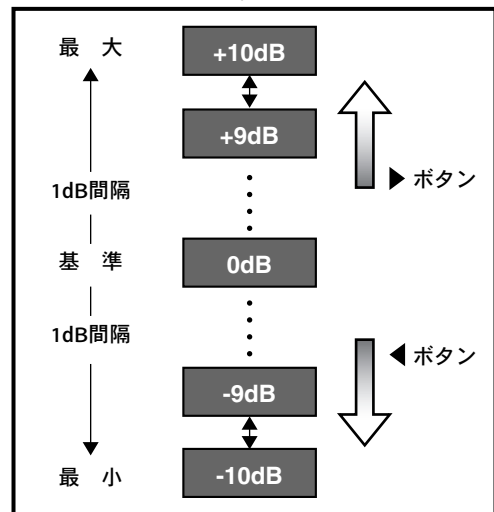
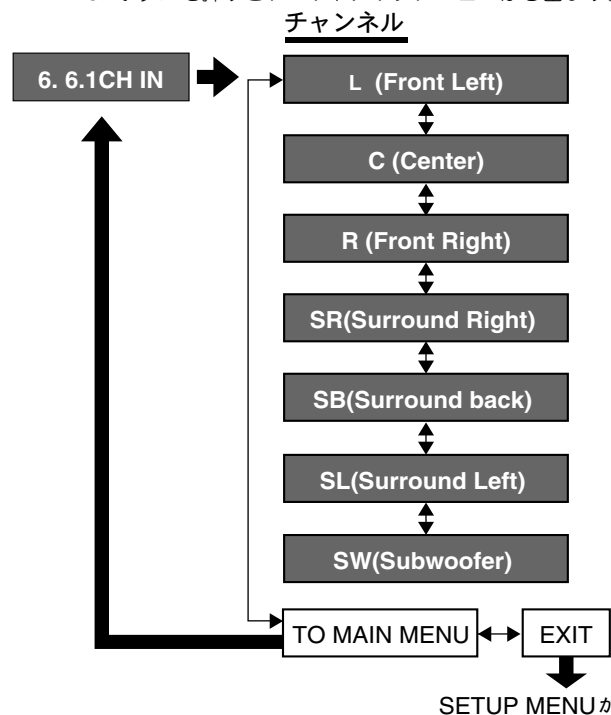
- センタースピーカーが「NONE」に設定されている場合、C.WIDTHは7に設定されます（C.WIDTH=***と表示されます）。

5. CSⅡ（CIRCLE SURROUNDⅡ：サークルサラウンドⅡ）

1. ▲ または ▼ のカーソルボタンでセットアップメインメニューの「5. CSⅡ」を選びます。
2. **OK** ボタンを押して、このメニューに入ります。
3. ▲または▼のカーソルボタンを押して、希望する項目を選びます。
4. ◄ または ► のカーソルボタンを押して、レベルを設定します。
5. ▲または▼のカーソルボタンを押して、「TO MAIN MENU（メインメニューへ）」を選び、**OK** ボタンを押すと、セットアップメインメニューに戻ることができます。
   - ◄ または ► のカーソルボタンを押して、「EXIT（出る）」を選び、**OK** ボタンを押すと、セットアップメニューから出ます。

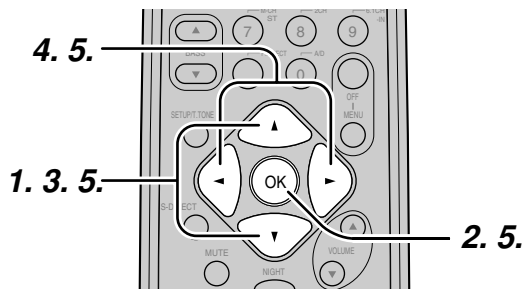
TRUBASS

TRUBASSは、実際のスピーカーの低音再生能力より更に低い低音があたかも出ているような豊かな低音効果を得ることができます。
◄ または ► のカーソルボタンで0から6までの7段階で設定できます。

SRS DIALOG

この機能を使うことにより、映画などでのセリフを明瞭にして、聞きやすくします。
◄ または ► のカーソルボタンで0から6までの7段階で設定できます。
SPEAKER SIZE（スピーカーのサイズ）セットアップでセンタースピーカーに対して「NONE」を選択していると、この設定は表示されません。

6. 6.1CH INPUT（6.1チャンネル入力）レベル

このサブメニューは6.1チャンネル入力ソースに対し、各チャンネルのレベルを調整します。
各チャンネルに対して、音量が同じレベルになるよう調整します。

1. ▲ または ▼ のカーソルボタンでセットアップメインメニューの「6. 6.1CH IN」を選びます。
2. **OK** ボタンを押して、このメニューに入ります。
3. ▲または▼のカーソルボタンを押して、希望するチャンネルを選びます。
4. ◄ または ► のカーソルボタンを押して、各チャンネルの音量レベルを設定します。

5. ▲または▼のカーソルボタンを押して、「TO MAIN MENU（メインメニューへ）」を選び、**OK** ボタンを押すと、セットアップメインメニューに戻ることができます。
   - ◄または►のカーソルボタンを押して、「EXIT（出る）」を選び、OKボタンを押すと、セットアップメニューから出ます。

7. SURROUND（サラウンド）

このサブメニューは各サラウンドモード毎に、チャンネルのレベルを調整します。
サラウンドモードによってチャンネルバランスを変えたいときに使います。

1. ▲または▼のカーソルボタンでセットアップメインメニューの「7. SURROUND」を選びます。
2. ***OK*** ボタンを押します。
3. ▲または▼のカーソルボタンを押して、希望する項目を選びます。
4. ◀または▶のカーソルボタンを使って、モードを選ぶか、または各スピーカーの音量レベルを調整します。
5. ▲または▼のカーソルボタンを押して、「TO MAIN MENU（メインメニューへ）」を選び、***OK*** ボタンを押すと、セットアップメインメニューに戻ることができます。
   - ◀または▶のカーソルボタンを押して、「EXIT（出る）」を選び、***OK*** ボタンを押すと、セットアップメニューから出ます。

SURROUND-MODE
◀ または ▶ のカーソルボタンで希望するサラウンドモードを選びます。

SURR.L/R
◀ または ▶ のカーソルボタンで－10dBから＋10dBまで1dB間隔でサラウンドレフト／ライトスピーカーの音量レベルを調整します。
SPEAKER SIZE（スピーカーのサイズ）セットアップでサラウンドL／Rスピーカーに対して「NONE」を選択していると、この設定は表示されません。

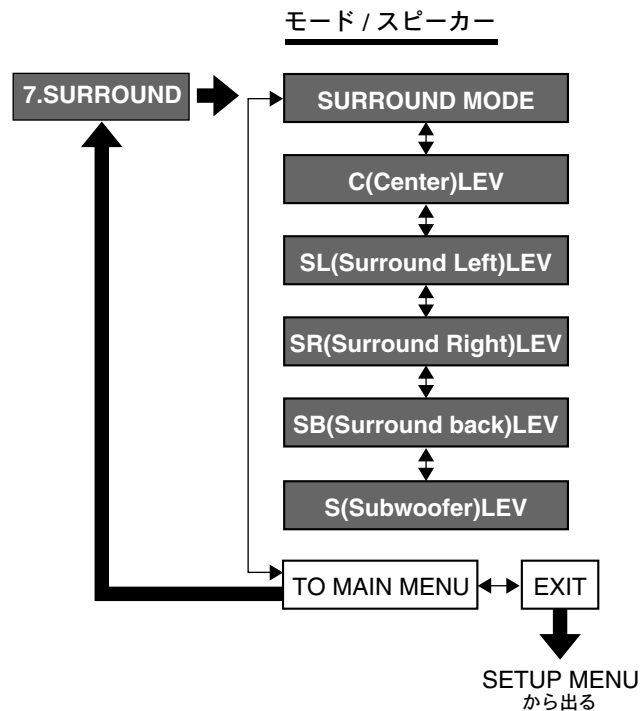
SURR. BACK
◀ または ▶ のカーソルボタンで－10dBから＋10dBまで1dB間隔でサラウンドバックスピーカーの音量レベルを調整します。
SPEAKER SIZE（スピーカーのサイズ）セットアップでサラウンドバックスピーカーに対して「NONE」を選択していると、この設定は表示されません。

CENTER
◀ または ▶ のカーソルボタンで－10dBから＋10dBまで1dB間隔でセンタースピーカーの音量レベルを調整します。
SPEAKER SIZE（スピーカーのサイズ）セットアップでセンタースピーカーに対して「NONE」を選択していると、この設定は表示されません。

SUB W
◀ または ▶ のカーソルボタンで－15dBから＋10dBまで1dB間隔でサブウーファーの音量レベルを調整します。
SPEAKER SIZE（スピーカーのサイズ）セットアップでサブウーファーに対して「NONE」を選択していると、この設定は表示されません。

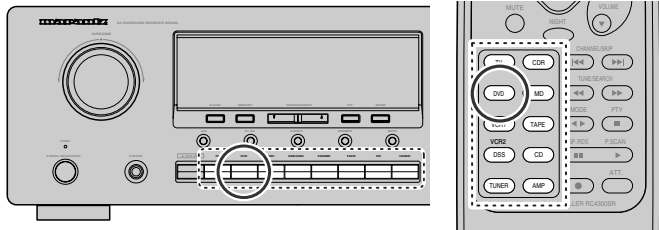
▲または▼のカーソルボタンを押して、「TO MAIN MENU（メインメニューへ）」を選び、OKボタンを押すと、セットアップメインメニューに戻ることができます。

ご注意

- サラウンドL／R、サラウンドバック、センターそしてサブウーファーの音量レベルはセットアップメインメニュー 2-3 SPEAKER LEVELと同調します。

基本操作

入力ファンクションの選択

信号を再生する際は、まず初めに本体の入力ファンクションを選択する必要があります。

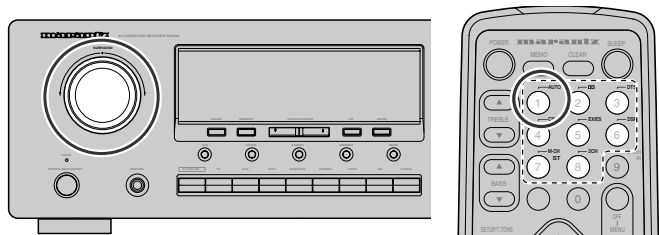
例）DVDからの信号を再生する。

1. 本体の***DVD***ボタン、またはリモコンの***DVD***ボタンを押します。

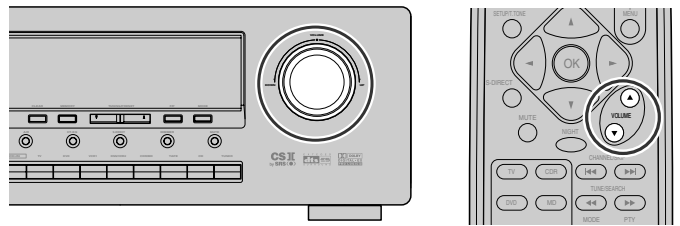
2. その後DVDプレーヤー側で再生を開始します。

- 入力ファンクションを切り換えた際、前面表示部に選択したファンクション名が表示されます。
  入力ファンクション毎にサラウンドモード、デジタル入力、アナログ入力、など前回の状態がメモリーされています。
- オーディオファンクション（TUNER、CD、TAPE、CD-R/MD）などを選択した場合ビデオ出力は最後に選択したビデオ機器の状態を保持しています。
- ビデオ系のファンクションを選択した場合、MONITOR OUT（モニター出力）より選択した機器のビデオ信号が出力されます。但しビデオ入力信号はビデオ用MONITOR OUT（モニター出力）へ、S-ビデオ入力信号はS-ビデオ用MONITOR OUT（モニター出力）へと出力されます。異なる信号間での入出力は行いません。よって選択したファンクションの入力に合ったモニター出力をモニターに接続して下さい。

サラウンドモードの選択

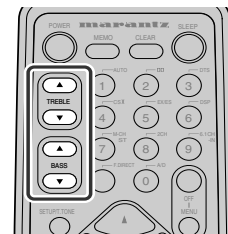
入力ファンクションを選んだ後は、ご希望のサラウンドモードを選択します。
各サラウンドモードについては23ページのサラウンドモードの項を参照して下さい。

例）AUTOモードを選択する場合。

1. 本体の***SELECT***ダイヤルを回し、前面表示部にAUTOと表示が出るようにします。リモコンでは***AUTO***ボタンを押します。

音量を調整する

1. 本体の***VOLUME***ダイヤルを回すか、リモコンの***VOL▲/▼***ボタンを押してお好みの音量に調整します。
- 音量を上げるには***VOLUME***ダイヤルを右に回すかリモコンの***VOL▲***ボタンを押して下さい。
- 音量を下げるには***VOLUME***ダイヤルを左に回すかリモコンの***VOL▼***ボタンを押して下さい。

ご注意
- 音量は－∞から+18dBの間にて、1dB間隔で設定できます。
- セットアップメニューのスピーカーの出力レベル（17ページ）、6.1チャンネル入力レベル（19ページ）、サラウンドレベル設定（20ページ）でチャンネルレベルをプラスレベルに設定したとき、全てのチャンネルレベルを+1dBまたはそれ以上に設定しようしても、ボリュームは最大+18dBまでしか設定できません。
  （この場合、ボリュームの設定できる範囲は、+18dBからチャンネルレベルにて設定したプラスレベルを差し引いた値までです。）

トーンコントロール

本機は出力のBASS（低音域）、TREBLE（高音域）の調整が各々調整可能です。それぞれ、＋/－ 6段階まで調整ができます。

BASS（低音域）コントロール

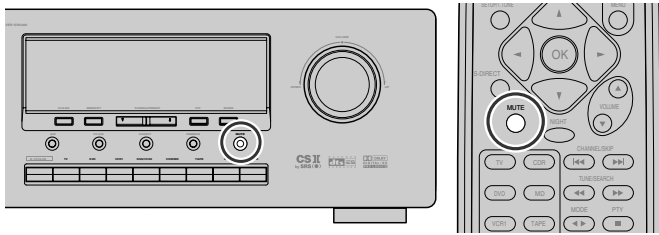
- リモコンの***BASS▲***または***BASS▼***ボタンを押してお好みのレベルに調整して下さい。

TREBLE（高音域）コントロール

- リモコンの***TREBLE▲***または***TREBLE▼***ボタンを押してお好みのレベルに調整して下さい。

ご注意
- トーンコントロールはフロントスピーカーの左右に対して働きます。
- ソースダイレクトモードが設定された場合、トーンコントロールは使用できません。

ミュート機能

本機で再生動作をしている最中に、リモコンで一時的にスピーカーからの音声を消すことができます。

1. 本体またはリモコンの***MUTE***ボタンを押します。
- 音声出力が消えます。本体前面表示部に MUTEと表示されます。

2. ミュートを解除したい場合は、再度***MUTE***ボタンを押します。
- 音声が再び出力されます。

スリープタイマーを使う

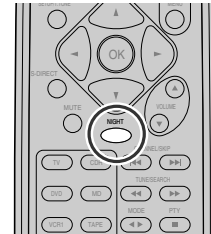
設定した時間で自動的に電源がスタンバイ状態になる機能です。最大90分まで設定可能です。

1. リモコンの***SLEEP***ボタンを押します。
- 押す毎に前面表示部の設定時間表示が以下の様に変わります。

2. ご希望の時間で約 2 秒間 お待ち下さい。スリープタイマーがセットされます。
- 前面表示部内のSLEEPが点灯します。

3. スリープタイマーを解除したい場合は、上記の手順 ***1.***と***2.***を行ってOFFを選択して下さい。

ナイト(NIGHT)モード

夜間等に再生音のダイナミックレンジを押さえて、全体の音量を上げずに小さな音声を聞きやすくすることができます。本動作は、リモコンにて切り換えを行います。
ナイトモードの効果は、ドルビーデジタルのフォーマットによって設定されています。本動作に対応していない入力信号によっては効果が出ない場合があります。

1. リモコンの***NIGHT*** ボタンを押します。
- 本体前面表示部内のNIGHTが点灯します。

2. ナイトモードを解除したい場合は、再度***NIGHT*** ボタンを押します。
- 本体前面表示部内のNIGHTが消えます。

サラウンドモードについて

本機は以下のような多種のサラウンドモードを持っております。再生するソースやお好みに応じて各種モードを使い分ける事が可能です。入力ファンクション毎にこれらのサラウンドモードはメモリーされます。
入力信号によって各サラウンドモードの再生状態が変わります。(25ページのサラウンドモード/入力信号対応表を参照)

AUTO(オートサラウンド)

入力されるデジタル信号の種類を検出し、自動的に再生状態を切り替えます。
ドルビーデジタル、ドルビーデジタルEX、ドルビーサラウンド、DTS、DTS-ES、PCM、96kPCMなどの信号フォーマットを検出してそれぞれに対応した再生モードに切り換えます。
基本的に、入力信号がPCM信号の場合はSTEREO再生を行います。ドルビーデジタルやDTSの場合それぞれのチャンネル数に応じた再生を行います。

DD モード

(DOLBY DIGITAL, PRO LOGICII－Movie、Music、PRO LOGIC)
DVDなどのドルビーデジタル5.1ch信号入力に対してはそのまま再生します。
2ch入力信号に対してはドルビープロロジックII再生を行うことができます。
従来のプロロジックは、フロント3ch、リアはモノ(1ch)の4ch構成となっていました。またサラウンドチャンネルに再生帯域に制限があり、上限が7kHzでした。プロロジックIIは、ドルビーデジタルと同じように、フロント3ch、リア2chのフルバンド5chで構成されており、自然なサラウンド表現が可能です。
プロロジックIIモードはMovie(ムービー)モードとMusic(ミュージック)モード、プロロジック互換モードの3種から選択できます。リモコンのDDボタンを押して選択してください。

PRO LOGICII-Movieモードは映画再生にパラメータを最適化したものです。ドルビーサラウンド・エンコード作品は、このモードで視聴するとより効果的です。

PRO LOGICII-Musicモードは音楽再生に最適化したパラメータを持たせております。サラウンドチャンネルは定位よりも包囲感が得られるチューニングになっています。このモードは通常のステレオ録音された音楽などを再生するときに用いる事ができます。Musicモードではお好みに合わせて各種パラメーター調整を施すことが可能です。(PLII(プロロジックII)設定の項参照(18ページ))

PRO LOGICモードは従来のプロロジック再生互換があります。ドルビーサラウンド録音ソースに対しそのまま忠実なデコードをします。

ご注意

- 本モードは2ch信号入力の場合はプロロジックII再生を行いますがドルビーデジタル5.1ch信号が入力された場合は自動的にドルビーデジタル5.1ch再生に切り替わります。
  本モードでは例えドルビーデジタルEX信号が入力されてもEX(6.1ch)再生はしません。
  EX再生をする場合はEX/ESモードを選んで下さい。

DTS モード(dts、Neo:6-CINEMA、Neo:6-MUSIC)

DVDなどのdts5.1ch信号入力に対してはそのまま再生します。
2ch信号入力(アナログ信号入力を含む)に対してはNeo:6-Cinema、Neo:6-Musicの選択が可能です。リモコンの***dts***ボタンを押して選択してください。
dts-Neo:6は2チャンネル記録された入力信号から6チャンネルのフルバンドチャンネルを再生します。
Neo:6-Cinema(シネマ)とNeo:6-Music(ミュージック)の2種類のマトリックス・モードが選択できます。
Neo:6-Cinema はサラウンド・エンコーディングされた映画のサウンド・トラック用のマトリックス・モードでVTR等の2chソースから6.1chのサラウンド再生が可能です。
Neo:6-Music は従来のステレオ音楽を6.1chにて再生するためのマトリックス・モードです。

ご注意

- 本モードではたとえdts-ES信号が入力されてもES(6.1ch)再生はしません。ES再生をする場合はEX/ESモードを選んで下さい。
  Neo:6再生はPCM2ch信号入力時、あるいはアナログ入力にのみ選択できます。

EX/ES

ドルビーデジタル5.1chの場合、一旦5.1chデコードをした後にマトリクス処理を施すことにより、サラウンドバック信号を付加します。
ドルビーデジタルEX処理を施して記録された入力信号では、サラウンド空間再生の定位感が向上します。
しかし、サラウンドEX 処理が施されていない5.1ch信号に対しては不自然な定位再生になることがあります。
(詳しくはDVDのパッケージなどを参照して、本モードに切り替えてください)
DTS-ES信号入力の場合、信号内に記録された判別信号によってDiscrete-6.1、 Matrix-6.1の再生方式を切り替えてDTS-ES処理を行います。通常の5.1ch-DTS信号入力の場合、一旦5.1chデコードをした後にMatrix-6.1処理を施してサラウンドバック信号を付加します。

ご注意

- 入力信号にL、R独立したサラウンド信号成分が記録されている場合に有効です。よってPCM信号、アナログ信号などの入力時はこのモードは使用できません。
  また、セットアップのスピーカー設定にてサラウンドバックスピーカーを使用している設定の場合にのみ有効です。サラウンドバックスピーカーを使用しない設定の場合、このモードは使用できません。

DSP SURROUND(MOVIE、HALL、STADIUM、MATRIX)

各種入力信号に応じて、独自の音場再生処理(MOVIE、HALL、STADIUM、MATRIX)を付加することにより、ホールやスタジアム、劇場の雰囲気をかもし出します。リモコンの***DSP***ボタンを押してお好みによりMOVIE、HALL、STADIUM、MATRIXの4種を切り替えてご使用下さい。
DSP SURROUND再生はPCM2ch信号入力時、あるいはアナログ入力にのみ選択できます。

CSII(サークルサラウンドII)

通常のVTRやCDなどのステレオやモノラル等、あらゆる素材を6.1ch音場再生することが出来るモードです。
CSII-CinemaとMusicおよびMonoの3種類のモードがあります。リモコンの***CSII***ボタンを押して選択してください。
CSII-Cinema(シネマ)
映画などのサウンド・トラック用の再生に適したモードでVTR等の2chソースから6.1chのサラウンド再生が可能です。
CSII-Music(ミュージック)
CDなど従来のステレオ音楽を6.1chにて再生するするのに適したモードです。
CSII-Mono(モノ)
モノラル録音された映画素材やTV放送でさえも、6.1ch再生を可能にします。

またCSIIモードではお好みに合わせて各種パラメーター調整(Trubass、SRS DIALOG)を施すことが可能です。(CSIIパラメーター 設定の項参照(19ページ))

ご注意

- CSII再生はPCM2ch信号入力時、あるいはアナログ入力にのみ選択できます。

MULTI-CH. STEREO（マルチチャンネル・ステレオ）

2ch 信号入力に対して独自の処理を施しマルチチャンネル（6.1ch）再生をします。
5.1ch信号入力に対してはそのまま再生します。

VIRTUAL（バーチャル）

2本のフロントスピーカーだけで、あたかもサラウンドスピーカーがあるようなサラウンド効果を再現します。
ドルビーデジタル、DTSのマルチチャンネルソースにバーチャル処理を施して再生します。また2ch信号入力に対しては一旦サラウンド処理を施した後にバーチャル再生を行います。

STEREO（ステレオ）

入力信号のチャンネル数に関わらずステレオ再生を行います。よってたとえ5.1ch信号（ドルビーデジタル、DTS）が入力されている場合でも、フロントL/Rだけの再生となります。

S-DIRECT（ソース　ダイレクト）

スピーカー設定などによる周波数フィルターやディレイ、トーンコントロールなどの付加処理をバイパスします。よって入力信号を最短処理にて出力します。またアナログ信号入力時にはデジタル部の処理を停止して、高周波クロックなどの影響を最小限にします。入力信号への追従はAUTOモードと同じです。

ご注意

- このモードを選択すると、内部的にセットアップメニューのSPEAKER SIZE（スピーカーサイズ）における各スピーカーの設定がすべてLARGE（ラージ）およびSubWoofer（サブウーファー）=YESの設定状態で再生されます。
  またトーンコントロール、HT-EQなどの処理はすべて無効となります。

デジタル信号入力に関して。

DVDプレーヤー等と本機をデジタル信号接続をして使用している場合に、プレーヤーによってはスキップ動作や音声切り替え等の操作時に音声が途切れたり、音声出力が遅れる場合があります。これは有害なノイズの発生を防ぐ為であり故障ではありません。

DOLBY SURROUND EX 信号に関する注意

ドルビーデジタルEX再生はデジタル入力時のみ可能です。
ドルビーサラウンドE X 処理が施されたソースの再生にはEX/ESモードの使用を推奨します。
自動的にドルビーデジタルEX再生に切り替わらない場合、DVDのジャケットの表記などを参照の上EX/ESモードに切り換えて下さい。
これはDVD内にSurround EX判別用信号が正確に記録されていない場合がある為です。

96kHZ PCM信号に関する注意

96kHzPCM信号入力時はAUTO、STEREO、S-DIRECTが選択可能です。
DVDプレーヤーによっては96kHz PCM信号のデジタル出力に対応していない場合があります。詳しくはお使いのDVDプレーヤーの取扱い説明書をご覧下さい。
DVDディスクによっては著作権保護の為、96kHz PCM信号のデジタル出力を禁止している場合があります。

DTS信号に関する注意

DTS信号の再生はデジタル入力時のみ可能です。
DTS-CDやDTS-LDを再生する場合、プレーヤーのアナログ音声出力からノイズが出力されている場合があります。必ずプレーヤーのデジタル出力端子と本機のデジタル入力端子を接続してご使用下さい。
上記ノイズ出力の理由により、本機でDTS-CDやDTS-LDを再生中はデジタル、アナログ入力の切り替え動作等を禁止している場合があります。一旦プレーヤー側をSTOP状態にしてから行ってください。

サラウンドモード / 入力信号対応表

サラウンドモード	入力信号	デコード	出力チャンネル					前面表示		
			L/R	C	SL SR	SB	SW	ドットマトリックス表示	信号フォーマット表示	チャンネル状態
AUTO	ドルビーサラウンドEX	ドルビーデジタルEX	○	○	○	○	○	DOLBY D EX	DD DIGITAL, EX	L, C, R, SL, SR, S, LFE
(オート)	ドルビーデジタル (5.1ch)	ドルビーデジタル5.1	○	○	○	-	○	DOLBY D	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	ドルビーデジタル (2ch)	ドルビーデジタル2.0	○	-	-	-	-	DOLBY D	DD DIGITAL	L, R
	ドルビーデジタル (2ch Surr)	プロロジックII ムービー	○	○	○	-	-	DOLBY PL II MV	DD DIGITAL, DD SURROUND	L, R, S
	DTS-ES	DTS-ES	○	○	○	○	○	DTS ES	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS (5.1ch)	DTS 5.1	○	○	○	-	○	DTS	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	PCM (オーディオ)	PCM (ステレオ)	○	-	-	-	-	STEREO	PCM	L, R
	PCM 96kHz	PCM (96kHz ステレオ)	○	-	-	-	-	STEREO	PCM, 96kHz	L, R
	アナログ	ステレオ	○	-	-	-	-	STEREO	ANALOG	-
S-DIRECT	ドルビーサラウンドEX	ドルビーデジタルEX	○	○	○	○	○	DOLBY D EX	DD DIGITAL, EX	L, C, R, SL, SR, S, LFE
(ソース	ドルビーデジタル (5.1ch)	ドルビーデジタル5.1	○	○	○	-	○	DOLBY D	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
ダイレクト)	ドルビーデジタル (2ch)	ドルビーデジタル2.0	○	-	-	-	-	DOLBY D	DD DIGITAL	L, R
	ドルビーデジタル (2ch Surr)	プロロジックII ムービー	○	○	○	-	-	DOLBY PL II MV	DD DIGITAL, DD SURROUND	L, R, S
	DTS-ES	DTS-ES	○	○	○	○	○	DTS ES	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS (5.1ch)	DTS 5.1	○	○	○	-	○	DTS	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	PCM (オーディオ)	PCM (ステレオ)	○	-	-	-	-	STEREO	PCM	L, R
	PCM 96kHz	PCM (96kHz ステレオ)	○	-	-	-	-	STEREO	PCM, 96kHz	L, R
	アナログ	Stereo	○	-	-	-	-	STEREO	ANALOG	-
EX/ES	ドルビーサラウンドEX	ドルビーデジタルEX	○	○	○	○	○	DOLBY D EX	DD DIGITAL, EX	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	ドルビーデジタル (5.1ch)	ドルビーデジタルEX	○	○	○	○	○	DOLBY D EX	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS-ES	DTS-ES	○	○	○	○	○	DTS ES	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS (5.1ch)	DTS-ES	○	○	○	○	○	DTS ES	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
DOLBY	ドルビーサラウンドEX	ドルビーデジタル5.1	○	○	○	-	○	DOLBY D	DD DIGITAL, EX	L, C, R, SL, SR, S, LFE
(PLII MOVIE)	ドルビーデジタル (5.1ch)	ドルビーデジタル5.1	○	○	○	-	○	DOLBY PLII MS	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
(PLII MUSIC)	ドルビーデジタル (2ch)	プロロジックII	○	○	○	-	-	DOLBY PL	DD DIGITAL	L, R
(PRO LOGIC)	ドルビーデジタル (2ch Surr)	プロロジックII	○	○	○	-	-	または DOLBY PLII MV	DD DIGITAL, DD SURROUND	L, R, S
	PCM (オーディオ)	プロロジックII	○	○	○	-	-	または DOLBY PLII MS	PCM	L, R
	アナログ	プロロジックII	○	○	○	-	-		ANALOG	-
DTS	DTS-ES	DTS 5.1	○	○	○	-	○	DTS ES	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
(Neo:6 Cinema)	DTS (5.1ch)	DTS 5.1	○	○	○	-	○	DTS	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
(Neo:6 Music)	PCM (オーディオ)	Neo:6	○	○	○	○	-	NEO 6 CINEMA	PCM	L, R
	アナログ	Neo:6	○	○	○	○	-	または NEO 6 MUSIC	ANALOG	L, R
CSII CINEMA	PCM (オーディオ)	CSII	○	○	○	○	○	CSII CINEMA	PCM	L, R
CSII MUSIC CSII MONO	アナログ	CSII	○	○	○	○	○	または CSII MUSIC または CSII MONO	ANALOG	-
STEREO	ドルビーサラウンドEX	ステレオ	○	-	-	-	○	STEREO	DD DIGITAL, EX	L, C, R, SL, SR, S, LFE
(ステレオ)	ドルビーデジタル (5.1ch)	ステレオ	○	-	-	-	○	STEREO	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	ドルビーデジタル (2ch)	ステレオ	○	-	-	-	-	STEREO	DD DIGITAL	L, R
	ドルビーデジタル (2ch Surr)	ステレオ	○	-	-	-	-	STEREO	DD DIGITAL, DD SURROUND	L, R, S
	DTS-ES	ステレオ	○	-	-	-	○	STEREO	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS (5.1ch)	ステレオ	○	-	-	-	○	STEREO	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	PCM (オーディオ)	ステレオ	○	-	-	-	-	STEREO	PCM	L, R
	PCM 96kHz	ステレオ	○	-	-	-	-	STEREO	PCM, 96kHz	L, R
	アナログ	ステレオ	○	-	-	-	-	STEREO	ANALOG	-
VIRTUAL	ドルビーサラウンドEX	バーチャル	○	-	-	-	-	VIRTUAL	DD DIGITAL, EX	L, C, R, SL, SR, S, LFE
(バーチャル)	ドルビーデジタル (5.1ch)	バーチャル	○	-	-	-	-	VIRTUAL	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	ドルビーデジタル (2ch)	バーチャル	○	-	-	-	-	VIRTUAL	DD DIGITAL	L, R
	ドルビーデジタル (2ch Surr)	バーチャル	○	-	-	-	-	VIRTUAL	DD DIGITAL, DD SURROUND	L, R, S
	DTS-ES	バーチャル	○	-	-	-	-	VIRTUAL	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS (5.1ch)	バーチャル	○	-	-	-	-	VIRTUAL	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	PCM (オーディオ)	バーチャル	○	-	-	-	-	VIRTUAL	PCM	L, R
	アナログ	バーチャル	○	-	-	-	-	VIRTUAL	ANALOG	-
MULTI CH ST	ドルビーサラウンドEX	ドルビーデジタルEX	○	○	○	○	○	M-CH STEREO	DD DIGITAL, EX	L, C, R, SL, SR, S, LFE
(マルチチャンネ	ドルビーデジタル (5.1ch)	ドルビーデジタル5.1	○	○	○	-	○	M-CH STEREO	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
ル・ステレオ)	ドルビーデジタル (2ch)	マルチチャンネル・ステレオ	○	○	○	-	-	M-CH STEREO	DD DIGITAL	L, R
	ドルビーデジタル (2ch Surr)	マルチチャンネル・ステレオ	○	○	○	-	-	M-CH STEREO	DD DIGITAL, DD SURROUND	L, R, S
	DTS-ES	DTS-ES	○	○	○	○	○	M-CH STEREO	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS (5.1ch)	DTS 5.1	○	○	○	-	○	M-CH STEREO	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	PCM (オーディオ)	マルチチャンネル・ステレオ	○	○	○	-	-	M-CH STEREO	PCM	L, R
	アナログ	マルチチャンネル・ステレオ	○	○	○	-	-	M-CH STEREO	ANALOG	-
DSP サラウンド	PCM (オーディオ)	DSP	○	○	○	-	-	MOVIE (ムービー)	PCM	L, R
(ムービー) (ホール) (スタジアム) (マトリックス)	アナログ	DSP	○	○	○	-	-	またはHALL(ホール) またはSTADIUM(スタジアム) またはMATRIX(マトリックス)	ANALOG	-

Dolby D Surr EX: ドルビーデジタル・サラウンドEX記録のSurr EX信号
DTS-ES: DTSデジタル記録のES信号
Dolby D (2ch Surr): ドルビーサラウンド記録のドルビーデジタル2ch信号

L/R : フロントスピーカー
C : センタースピーカー
SL/SR : サラウンドスピーカー
SB : サラウンドバックスピーカー
SW : サブウーファー

その他の機能

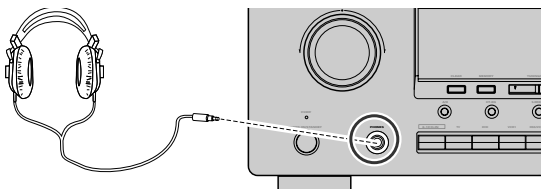
アッテネート機能

アナログ信号入力を本機にて再生している場合、本機の内部処理に対して入力信号がレベルが大きすぎると音が歪んで聞こえることがあります。
このような場合に、アッテネート機能によってアナログ入力信号レベルを減衰させることができます。
本機能は、アナログ入力が選択されている場合に有効です。
本機能は、各入力ファンクション毎にメモリーされます。
例えば、CDを選択し本機能を動作させ、他の入力に切り替えた後に、再びCDを選択した時に、本機能は有効になっています。

1. リモコンの***ATT***ボタンを押します。
- 本体前面表示部内のATTが点灯し、動作状態を表示します。

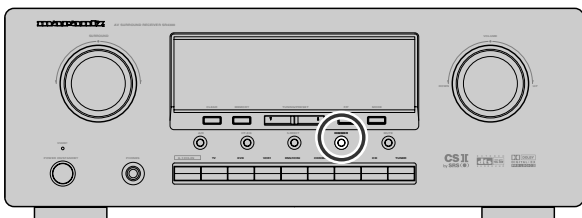
2. アッテネートを解除したい場合は、再度***ATT***ボタンを押します。
- ATT表示が消えます。

ヘッドホンで聞く

ヘッドホンの標準ステレオジャックをPHONES端子に接続します。
接続するとスピーカーからの出力は自動的に無くなります。
サラウンドモードは自動的にステレオモードになります。サラウンドモードの切り替えは禁止されます。S-DIRECTは選択可能です。
深夜のプライベートリスニングの際は、ヘッドホンの使用をお勧めします。

⚠警 告

- **ヘッドホンの音量が大きすぎると、耳を傷めることがあります。音量が大きくならないように注意してください。**

表示部の輝度を変える

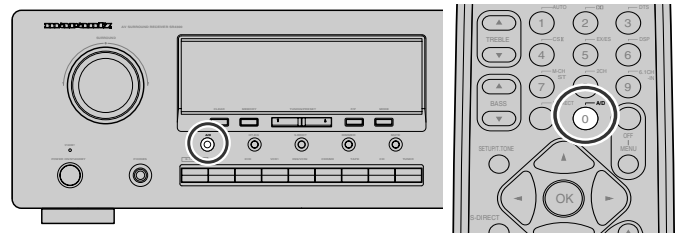
本体前面表示部の輝度を以下の表示モードで選択可能です。

通常モード： 常に表示部に本機の状態を表示します。
ディマー： 表示部の輝度を落とします。
表示オフ： 常に消灯したままです。

1. 本体の***DISPLAY***ボタンボタンを押します。
- これらのボタンを押す毎に、表示モードが順番に切り替わります。

ご注意
- Display Off状態では、ディスプレイ内のDISPだけは識別の為点灯します。

入力モード切替

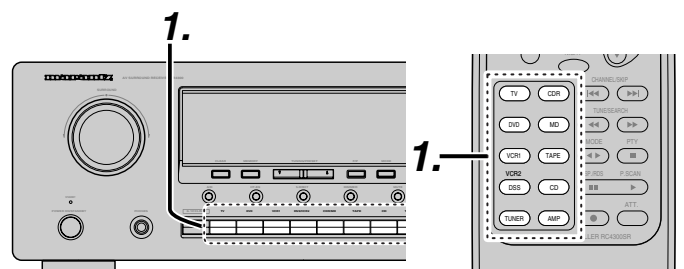
デジタル入力を設定したファンクションを選んでいる場合、以下の入力モードを切り替えることが可能です。

デジタルオート： デジタル信号が入力されている場合はデジタル入力へ切り替えます。、デジタル信号が約1.5秒以上入力されない場合は、自動的にアナログ信号入力へ切り替えます。
（表示例：DIG-1 AUTO）
デジタル： デジタル入力に固定されます。
（表示例：DIG-1）
アナログ： アナログ入力に固定されます。
（表示例：ANALOG）

1. 本体またはリモコンの***A/D***ボタンを押します。
- これらのボタンを押す毎に、入力モードが順番に切り替わります。

ご注意
- ここで選択した入力モードはあくまで一時的な切替です。入力ファンクションを切替えたり、スタンバイにした後は、セットアップメニューで設定した入力設定に戻ります。

アナログ信号で録音する

本機を操作してカセットテープ、CD-R、MDなどに録音することができます。このため本機はTAPE OUT端子、CD-R/MD OUT端子を装備しております。

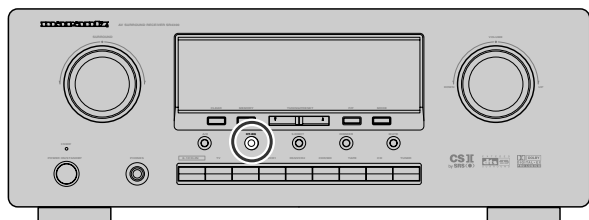
例1：現在CD入力にてCDを再生して聴きながら、TAPEにアナログ録音をする場合。
（既に接続例のようにアナログ信号も接続されている状態）

1. 本体の入力ファンクション切り替えボタンを押して、CDの入力を選択します。

2. 「カセットデッキの入力設定（録音レベル調節等）をおこない、録音スタンバイ状態にします。
- 詳細はカセットデッキの取扱説明書をご覧ください。

3. カセットデッキを録音状態にします。

4. CDプレーヤーを再生します。録音が開始されます。

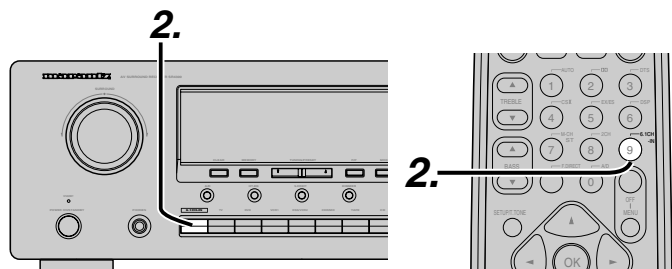
ご注意
- デジタル信号入力だけの接続の場合、アナログ録音出力端子への出力が得られません。録音機能を使用する場合は、アナログ信号入力の接続も行ってください。
- TAPE OUT端子CD-R/MD OUT端子には、常に本機が再生状態にある機器からの入力信号が出力されます。
例えばDVDを選択して再生している場合、この端子には本機のDVDアナログ入力端子への入力信号が出力されます。

HT-EQ モード

映画館ではセンタースピーカーがスクリーンの後ろにあるため、映画ソフトはスクリーンでの減衰を見込んで高域を強調して録音されています。 本機では、映画館とホームシアターとの差異を補正するHT-EQ（ホームシアター・イコライザー）を搭載し、製作者の意図通りの映画再生をご家庭でお楽しみいただけます。
この機能はサラウンドモードがAUTO、DOLBY、DTSまたはSTEREOのときに使用できます。

1. 本体の***HT-EQ*** ボタンを押します。

2. この機能を解除するには、再度***HT-EQ*** ボタンを押します。

6.1CH INPUT（6.1チャンネル入力）

マルチチャンネルSACDプレーヤーやDVD-Audioプレーヤーなどのマルチチャンネル信号に対応するための6.1チャンネル分の外部入力端子が搭載されています。
本入力への信号は内部サラウンド処理をバイパスしてボリュームコントロールを通過した後、プリアウトおよび内部アンプに入力されます。（SubW入力はプリアウトのみ）
本機能は以前に使用していたビデオ系入力をラストメモリーとして、その映像と同時に楽しむことができます。

1. ご希望のビデオソースを入力しているファンクションを本体またはリモコンで選択します。

2. 本体またはリモコンの***6.1CH-IN*** ボタンを押します。
- リモコンを使ってこの操作を行う場合は、あらかじめ***AMP***ボタンを一度押して、本機をアンプモードにしてから操作をします。もし6.1CH-INPUTの各チャンネルの音量バランスを調整したい場合はセットアップメニューの「6.1 CH INPUT（6.1チャンネル入力）レベル」を選択して、調整してください。（19ページ）

3. 本体の***VOLUME*** またはリモコンの***VOLUME*** **▲ / ▼**にて、全体の音量をお好みのレベルに合わせてください。

4. 6.1CH-INPUTを解除する場合は、本体またはリモコンの***6.1CH-IN*** ボタン を押します。

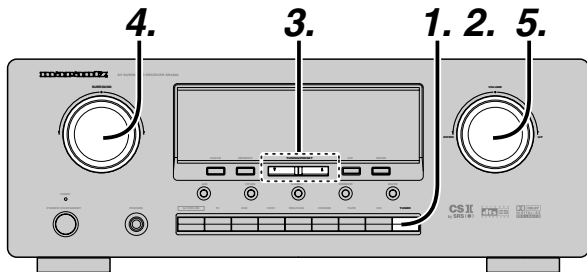
（注）

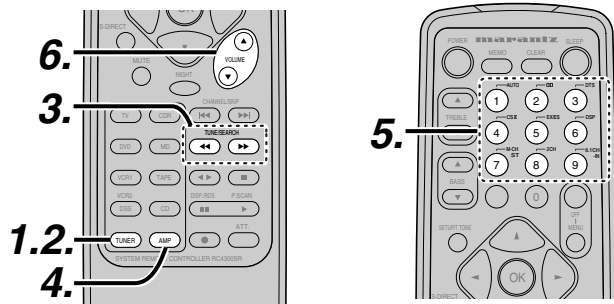
- 6.1CH-INPUTを選択している場合、サラウンドモードは選択できません。
- 6.1CH-INPUTを選択している場合、録音出力端子には信号は出ません。

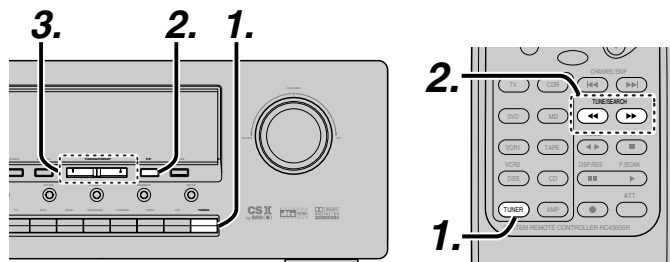
チューナーの基本操作について

FM/AM放送を聞く

ここでは、操作例として、本機のチューナー部を使ってFMまたはAMを受信するときの操作について説明します。

本体での操作

1. ***TUNER*** ボタンを押して、表示部にFM もしくは AM の入力表示を出します。
2. 再度、***TUNER*** ボタンを押して、FMまたはAMを選択します。
   - ***TUNER*** ボタンを押す毎にFM⇆AMと切り替わります。
3. ***TUNING*** ▲ または ▼ボタンを押して、希望の放送局に周波数を合わせます。
4. サラウンドモード選択ツマミを回して、希望のサラウンドモードにします。
5. 音量調整ツマミを回し、音量を調整します。

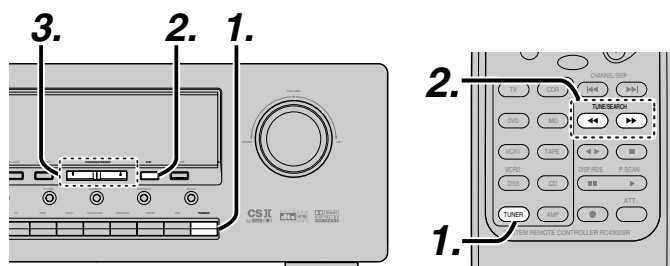
リモコンでの操作

1. ***TUNER*** ボタンを押して、表示部にFM もしくは AM の入力表示を出します。
2. 再度、***TUNER*** ボタンを押して、FMまたはAMを選択します。
   - ***TUNER*** ボタンを押す毎にFM⇆AMと切り替わります。
3. ◀◀、▶▶ボタンを押し、希望の放送局に周波数を合わせます。
4. ***AMP*** ボタンを一度押して、アンプモードにします。
5. 10キーボタンを押して、希望のサラウンドモードにします。
6. VOLUME▲ または ▼ボタンを押し、音量を調整します。

放送局の自動選局

本体での操作

1. ***TUNER*** ボタンを押して、表示部にFM もしくは AM の入力表示を出します。
   - 表示されたバンドが希望するものと違った場合は、再度***TUNER*** ボタンを押してください。
2. ***F/P*** ボタンを押して、周波数表示にします。
3. ***TUNING*** ▲ または ▼を 1 秒以上押し続けます。
   - 自動選曲状態になり周波数が変化を開始します。放送局のある周波数で自動停止します。
   - ▲ボタンを押すと高い周波数の方へ変化します。▼ボタンを押すと低い周波数の方へ変化します。

リモコンでの操作

1. ***TUNER*** ボタンを押してチューナーモードにします。
2. ◀◀、▶▶ボタンを1秒以上押し続けます。
   - 自動選曲状態になり周波数が変化を開始します。放送局のある周波数で自動停止します。
   - ◀◀ボタンを押すと高い周波数の方へ変化します。▶▶ボタンを押すと低い周波数の方へ変化します。

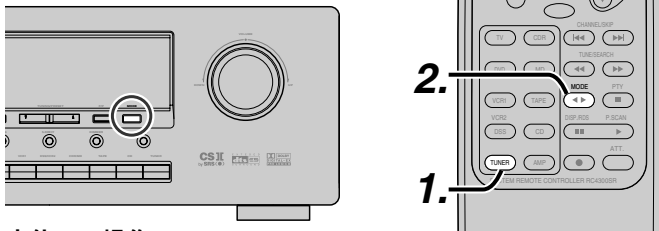
放送局の手動選局

本体での操作

1. ***TUNER*** ボタンを押して、表示部にFM もしくは AM の入力表示を出します。
   - 表示されたバンドが希望するものと違った場合は、再度***TUNER*** ボタンを押してください。
2. ***F/P*** ボタンを押して、周波数表示にします。
3. ***TUNING*** ▲ または ▼ボタンを 1 回づつ押します。
   - ▲ボタンを押すと高い周波数の方へ変化します。▼ボタンを押すと低い周波数の方へ変化します。
   - FMを選択しているときは、周波数は50kHzステップで変化します。
   - AMを選択しているときは、周波数は9kHzステップで変化します。

リモコンでの操作

1. ***TUNER***ボタンを押して表示部にFM もしくは AM の入力表示を出します。
2. ◀◀、▶▶ボタンを 1 回ずつ押します。
   - ◀◀ボタンを押すと高い周波数の方へ変化します。▶▶ボタンを押すと低い周波数の方へ変化します。
   - FMを選択しているときは、周波数は50kHzステップで変化します。
   - AMを選択しているときは、周波数は9kHzステップで変化します。

受信モードの切り換え

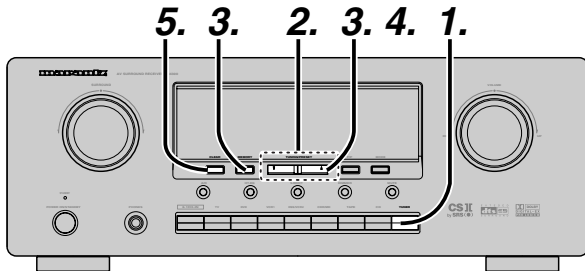
放送局の電波が弱いと、ステレオ放送のノイズが多くなったり、受信できない場合があります。この場合、受信モードをモノラル受信に変更してみて下さい。

本体での操作

MODE 切り換えボタンを押します。
- 前面表示のM表示が消灯し、モノラル受信モードになります。
- ***MODE***切り換えボタンを押す度に、モノラル受信⇆ステレオ受信が切り換わります。
- モノラル受信を選んだ場合、受信途中の放送局間にてノイズが聞こえます。

リモコンでの操作

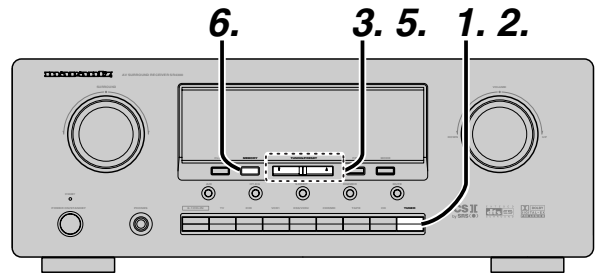
1. ***TUNER*** ボタンを押してチューナーモードにします。
2. ***MODE*** ボタンを押します。
   - 前面表示のM表示が消灯し、モノラル受信モードになります。
   - ***MODE*** ボタンを押す度に、モノラル受信⇆ステレオ受信が切り換わります。
   - モノラル受信を選んだ場合、受信途中の放送局間にてノイズが聞こえます。

放送局の自動登録　（オートプリセット）

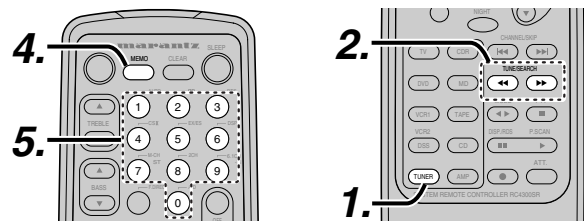
FM/AMバンド両方を自動選局し、受信した放送局をプリセットナンバー1から最大30まで順次登録できます。
登録番号を1から順次記録させる為、再度この機能を動作させた場合、事前に登録した内容は消えてしまいます。

本体での操作

1. ***TUNER*** ボタンを押して、FMまたはAMを選択します。
   - FMを先の番号にしたい場合はFMを選択します。
2. ***TUNING*** ▲▼ボタンを押して、自動選局を開始したい周波数を合わせます。
   - FM全帯域を選局したい場合、76.00MHzに合わせます。
3. ***MEMORY***ボタンを押しながら、***TUNING*** ▲ボタンを押します。
   - 前面表示部にAUTO PRESETが表示されます。
   - 設定した周波数から順に自動選局を開始します。自動選局した放送局ごとに約5秒間再生をおこないます。
   - ***TUNER*** ボタンを押して、バンドを切り替えることができます。
   - FMバンドでの選局を終了すると引き続きAMバンドに切り替わって選局をおこないます。
   - 30局が登録されるか、FM, AM両方の自動選局が終わると本動作は完了します。
   - 完了すると前面表示が元に戻ります。
4. 記憶させたくない放送局で止まった場合は、再生を行っている約5秒間に***TUNING*** ▲ボタンを押します。
5. 途中でやめたい場合は、***CLEAR*** ボタンを押してください。
   - その時点までの登録が有効になります。

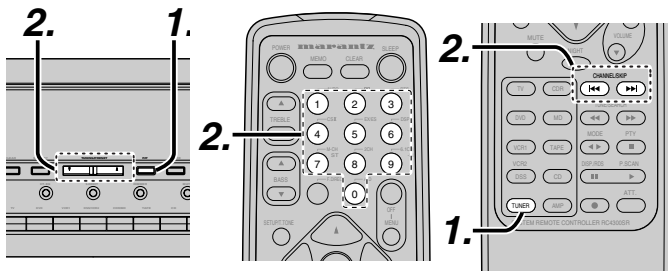
放送局の手動登録（マニュアルプリセット）

希望する放送局を手動で番号登録する方法です。最大30局まで登録可能です。
例として、FM放送の周波数82.5MHzを登録番号03にする場合を説明します。

本体での操作

1. ***TUNER*** ボタンを押して、表示部にFM もしくは AM の入力表示を出します。
2. AMが表示された場合は、再度***TUNER*** ボタンを押して、FMを選択します。
3. ***TUNING*** ▲▼ボタンを押して、周波数82.5MHzに合わせます。
4. ***MEMORY*** ボタンを押します。
   - 前面表示部にMEMOが点滅表示します。
5. ***TUNING*** ▲▼ボタンを押し、03を表示させます。
   - 前面表示部にMEMOと03が表示します。
6. 03 が表示されたら、***MEMORY*** ボタンを押して登録を決定します。

リモコンでの操作

1. ***TUNER*** ボタンを押してチューナーモードにします。
2. 再度、***TUNER*** ボタンを押して、FMまたはAMを選択します。
   - TUNERボタンを押す毎にFM⇆AMと切り替わります。
3. ◀◀、▶▶ボタンを押し、希望の放送局に周波数を合わせます。
4. ***MEMO*** ボタンを押します。
5. 10キーボタン 3 を押します。
   - 3 の点滅が点灯に変わったら、登録完了です。
6. 手順 ***2.***から***5.***を繰り返して、他の局を登録します。

登録した放送局を呼び出す

登録した放送局を呼び出します。

本体での操作

1. ***F/P*** ボタンを押して、前面表示をPRESET表示に切り替えます。

2. ***TUNING*** ▲▼ボタンを押して希望する番号を選びます。
- 選択した番号が呼び出され再生されます。

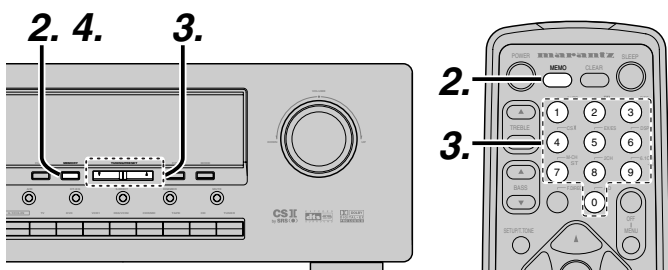
リモコンでの操作

1. ***TUNER*** ボタンを押してチューナーモード状態にします。

2. ⏮、⏭ ボタンを押して、希望する番号を表示させます。

もしくは希望の番号を10キーボタンにて入力して、表示させます。
- 一桁の番号を入力するときは、番号の前に 0 を付けてください。（3 番を呼び出すときは、「0」「3」と押してください。）
- 選択した番号が呼び出され再生されます。

登録した放送局の登録番号を変える

登録した放送局を呼び出し、登録番号を変えることができます。既に登録されている番号を入力すると、前の登録に上書きされます。（例：3番に82.5MHzの状態で 7番の85.00 MHzを3番に登録し直した場合、3番は85.00 MHzと書き換わります。）

本体での操作

1. 「登録した放送局を呼び出す」の手順を行い、登録番号を変えたい局を選びます。

2. ***MEMORY*** ボタンを一回押します。
- 前面表示のMEMOが点滅表示となり、番号登録可能状態となります。

3. ***TUNING*** ▲▼ボタンを押して、新しく登録する番号を表示します。

4. ***MEMORY*** ボタンを押します。
- これで新しい番号に変わりました。

リモコンでの操作

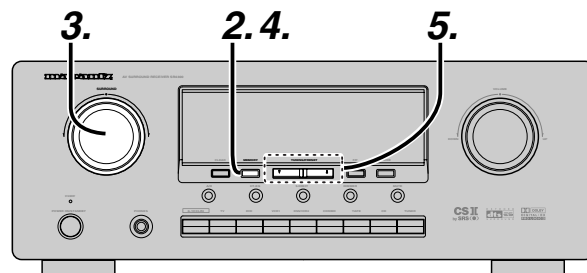
1. 「登録した放送局を呼び出す」の手順を行い、登録番号を変えたい局を選びます。

2. ***MEMO*** ボタンを一回押します。前面表示が番号登録可能状態となります。

3. 10キーボタンを使用して登録し直す番号を入力します。

登録した放送局に名前をつける

番号登録した放送局にそれぞれ名前を入力して表示させることができます。最大8文字が入力可能です。

本体での操作

1. 「登録した放送局を呼び出す」と同じ手順で、名前を入力したい放送局を選びます。

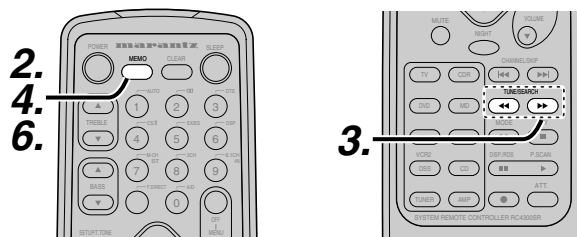
2. ***MEMORY*** ボタンを3秒以上押します。
- 前面表示が文字入力可能状態となります。

3. サラウンドモード選択ツマミを回して、入力したい文字を選びます。
- 選んだ文字を消したい時は、***CLEAR*** ボタンを押します。

4. ***MEMORY*** ボタンを押します。
- 選んだ文字が確定されます。
- 文字を挿入したいときは、***TUNING*** ▲▼ボタンを押して入力する場所を選んでください。

5. 手順***3.***から***4.***を繰り返し、必要な文字を確定してください。

6. ***MEMORY*** ボタンを3秒以上押してください。
- 手順5.までに確定した文字が登録されます。

リモコンでの操作

1. 「登録した放送局を呼び出す」と同じ手順で、名前を入力したい放送局を選びます。

2. ***MEMO*** ボタンを 3 秒以上押します。
- 前面表示が文字入力可能状態となります。

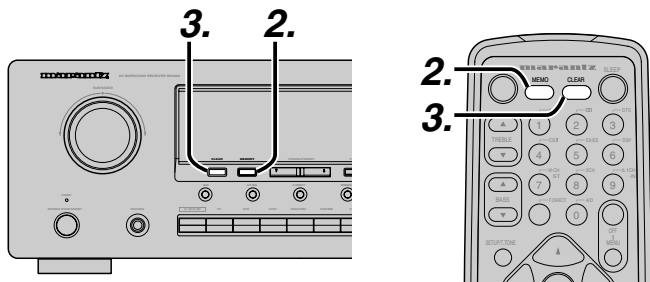
3. ◀◀、▶▶ボタンを押し入力したい文字を選びます。
- 選んだ文字を消したい時は、***CLEAR*** ボタンを押します。

4. ***MEMO*** ボタンを押します。
- 選んだ文字が確定されます。
- 文字を挿入したいときは、⏮ / ⏭ ボタンを押して入力する場所を選んでください。

5. 手順***3.***から***4.***を繰り返し、必要な文字を確定していきます。

6. ***MEMO*** ボタンを 3 秒以上押してください。
- 手順5.までに確定した文字が登録されます。

登録した放送局を消す

登録した放送局を一局づつ消すことができます。

本体での操作

1. 「登録した放送局を呼び出す」と同じ手順で、削除したい放送局を選びます。

2. ***MEMORY*** ボタンを押します。

- 前面表示のMEMOが点滅します。

3. この状態にて***CLEAR*** ボタンを押します。

- 前面表示が CLEAR と変わります。
- 選んだ番号の放送局が登録から削除されました。

リモコンでの操作

1. 「登録した放送局を呼び出す」と同じ手順で、削除したい放送局を選びます。

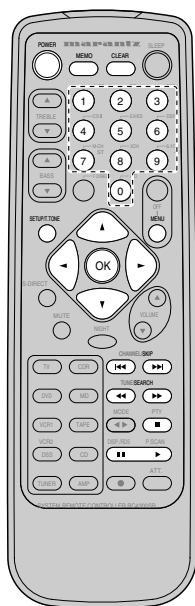
2. ***MEMO*** ボタンを押します。

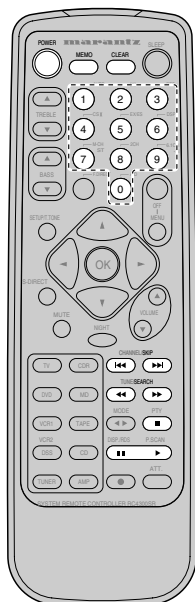
3. この状態にて***CLEAR*** ボタンを押します。

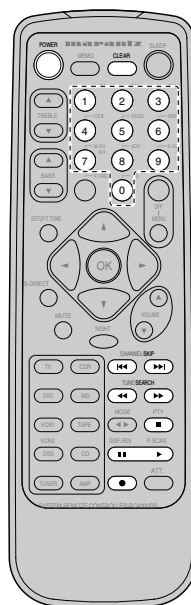
- 前面表示が CLEAR と変わります。
- 選んだ番号の放送局が登録から削除されました。

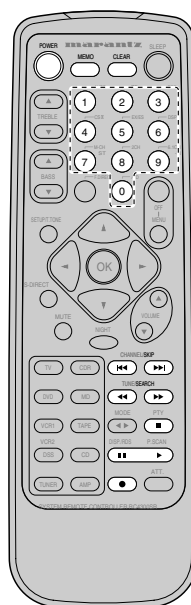
リモコンを使ってのマランツ製機器の操作

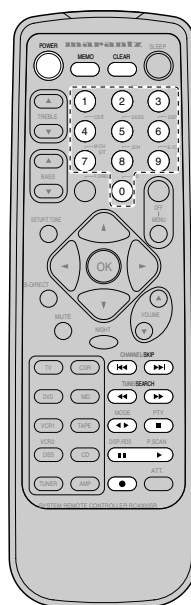
1. 希望する機器のファンクションボタンを押します。
2. 手順1.で選んだ機器を操作するために、各操作ボタンを押します。
   - 各機器の操作の詳細は、それぞれの取扱説明書をご覧ください。
   - 機器によっては、本機のリモコンにて操作できないものもあります。

マランツ製DVDプレーヤーの操作 (DVD モード)

POWER	DVDプレーヤーの電源入/切
MEMO	プログラミングの呼び出し
CLEAR	入力の取り消し
0 - 9	数字の入力
SETUP/T.TONE	DVDプレーヤーのセットアップメニュー呼び出し
カーソル	セットアップメニューでのカーソル移動
OK	セットアップメニューの設定確認
MENU	DVDディスクのメニュー呼び出し
⏮ / ⏭	前方または後方のチャプター/トラックへの移動
◀◀ / ▶▶	前方または後方のサーチ
■	停止
❚❚	一時停止
▶	再生

マランツ製CDプレーヤーの操作 (CD モード)

POWER	CDプレーヤーの電源入/切
MEMO	プログラミングの呼び出し
CLEAR	入力の取り消し
0-9	数字の入力
⏮ / ⏭	前方または後方のチャプター/トラックへの移動
◀◀ / ▶▶	前方または後方のサーチ
■	停止
❚❚	一時停止
▶	再生

マランツ製CDレコーダーの操作 (CDR モード)

POWER	CDレコーダーの電源入/切
CLEAR	入力の取り消し
0 - 9	数字の入力
⏮ / ⏭	前方または後方のチャプター/トラックへの移動
◀◀ / ▶▶	前方または後方のサーチ
■	停止
❚❚	一時停止
▶	再生
●	録音

マランツ製MDデッキの操作 (MDモード)

POWER	MDデッキの電源入/切
MEMO	プログラミングの呼び出し
CLEAR	入力の取り消し
0-9	数字の入力
⏮ / ⏭	前方または後方のチャプター/トラックへの移動
◀◀ / ▶▶	前方または後方のサーチ
■	停止
❚❚	一時停止
▶	再生
●	録音

マランツ製カセットデッキの操作 (TAPEモード)

POWER	カセットデッキの電源入/切
MEMO	プログラミングの呼び出し
CLEAR	入力の取り消し
0-9	数字の入力
⏮ / ⏭	前方または後方のチャプター/トラックへの移動
◀◀ / ▶▶	前方または後方のサーチ
◀ ▶	Chages the direction
■	停止
❚❚	一時停止
▶	再生
●	録音

故障かな?と思ったときは

症　　状	原　　因	処　　置
本機の電源が入らない。	電源コードが抜けている。	電源コードを正しく接続してください。
本機の電源が入っているが、映像や音声が出ない。	ミュート機能がオンになっている。	リモコンを使ってミュート機能を解除してください。
	本機への各種ケーブルの接続が正しくない。	「各機器との接続」の項を参考に、正しく接続してください。
	音量調整が最小になっている。	音量を適当な位置に調整してください。
	選択した入力ソースの機器が間違っている。	正しいソースを選択してください。
選択した機器からの音声や映像が出ない。	本機への入力ケーブルが正しく接続されていない。	「各機器との接続」の項を参考に、正しく接続してください。
全てのスピーカーから音が出ない。	PHONES 端子にヘッドホーンが接続されている。	ヘッドホーンを外してください。(ヘッドホーンが接続されている間は、スピーカーから音声は出ません。)
特定のスピーカーから違うチャンネルの音が再生される。	スピーカーケーブルが正しく接続されていない。	「各機器との接続」の項を参考に、正しく接続してください。
センタースピーカーから音が出ない。	センタースピーカー用ケーブルが正しく接続されていない。	ケーブルを正しく接続してください。
	サラウンドモードでSTEREO やVIRTUAL(バーチャル)が選択されている。	他のサラウンドモードを選択してください。サラウンドモードでSTEREO やVIRTUAL(バーチャル)が選択されている場合は、センタースピーカーから音声は出ません。
	セットアップメニューのSPEAKER SETUPにてCENTER:NONEが設定されている。	セットアップメニューにて正しい設定(LARGEもしくはSMALL)にしてください。
サラウンドスピーカーから音が出ない。	サラウンドスピーカーケーブルが正しく接続されていない。	「各機器との接続」の項を参考に、正しく接続してください。
	サラウンドモードでSTEREO が選択されている。	他のサラウンドモードを選択してください。サラウンドモードでSTEREO が選択されている場合は、サラウンドスピーカーから音声は出ません。
	セットアップメニューのSPEAKER SETUPにてSL & SR:NONE が設定されている。	セットアップメニューのSPEAKER SETUPにて正しい設定(LARGEもしくはSMALL)にしてください。
サラウンドバックスピーカーから音が出ない。	サラウンドバックスピーカーケーブルが正しく接続されていない。	「各機器との接続」の項を参考に、正しく接続してください。
	サラウンドモードでEX/ES、Neo:6、CSⅡ以外 が選択されている。	サラウンドバック再生可能なモードを選択してください。
	セットアップメニューのSPEAKER SETUPにてSURR B:NONE が設定されている。	セットアップメニューのSPEAKER SETUPにてSURR B:YESに設定してください。
サブウーファーから音が出ない。	セットアップメニューのSPEAKER SETUPにてSUB W:NONE が設定されている。	セットアップメニューのSPEAKER SETUPにてSUB W:YES に設定してください。
サラウンドモードが変えられない。	PHONES 端子にヘッドホーンが接続されている。	ヘッドホーンを外す。(ヘッドホーンが接続されている間は、サラウンドモードはSTEREO の設定になります。)
EX/ESモードが選択できない。	セットアップメニューのSPEAKER SETUPにてSURR B:NONE が設定されている。	セットアップメニューのSPEAKER SETUPにてSURR B:YESに設定してください。
	入力信号が対応していない。	各種5.1ch信号を選択して入力してください。
プロロジックⅡモードが選択できない。	入力信号が対応していない。	各種2ch信号を選択して入力してください。
Neo:6モードが選択できない。	入力信号が対応していない。	PCMあるいはアナログ2ch信号を選択して入力してください。
CSⅡモードが選択できない。	入力信号が対応していない。	PCMあるいはアナログ2ch信号を選択して入力してください。
DSPモードが選択できない。	入力信号が対応していない。	PCMあるいはアナログ2ch信号を選択して入力してください。
DTS 信号のあるCD やLD からノイズが出る。	アナログ入力にて使用している。	再生機器がデジタル出力できることを確認して、デジタル入力を設定してください。
	CD やLD プレーヤーがDTS 信号の出力に対応していない。	プレーヤー側を確認してください。
96kHzPCM信号が再生できない。	プレーヤーが96kHz PCM 信号の出力に対応していない。	DVDプレーヤーの取扱説明書を参照してください。
	ディスクにて96kHz PCM出力が禁止されている。	DVDプレーヤーの取扱説明書を参照してください。
	DVDプレーヤーのデジタル出力設定が誤っている。	DVDプレーヤーの取扱説明書を参照してください。
特定のスピーカーから音が出ない。	対象の信号が記録されていない。	どのスピーカーを使うサラウンド信号が記録されているか、出力側のチャンネルを確認してください。
リモコンを使って本機の操作ができない。	リモコンの電池が切れている。	全て新しい電池と取り替えてください。
	リモコンが違う動作モードになっている。	AMPモードを選択してください。
	リモコンと本機の間が離れ過ぎている。	本機に近付いて、リモコンを操作してください。
	リモコンと本機の間に、リモコンからの信号を妨害する物がある。	信号を妨害している物を取り除いてください。

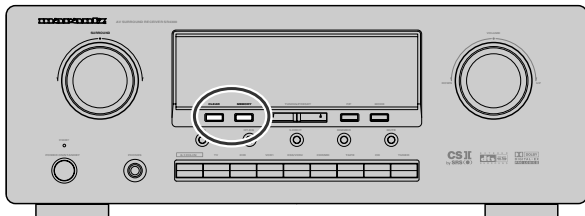
異常動作のときは

本機の前面表示部に異常な表示などを継続している場合、すぐに主電源を切って下さい。
再度電源を入れても症状が変わらない場合、電源コードを抜いてください。
その後、お買い上げになった販売店もしくはお近くの弊社営業所、または弊社サービスセンターにご相談下さい。

メモリバックアップについて

本機の主電源を切った状態でも、設定した各種内容を内部不揮発性メモリーに記憶しております。

初期状態に戻すには（リセット）

「故障かな?と思ったときは」を参考にされても、不具合が解決しない場合は、本機のリセットを試みてください。
但し、リセット行うと、以下の情報が消去されます。
セットアップメニューにて設定した内容、サラウンドモードの設定。

1. 電源が入っていることを確認します。

2. 本体の***CLEAR***ボタンを押しながら、***MEMORY***ボタンを3秒以上押します。
- 本機は一旦スタンバイ状態になった後、再度電源オン状態となり、各種設定された内容が初期化され、工場出荷の状態に戻ります。

ステレオ音のエチケット

楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。隣近所への配慮（思いやり）を十分にいたしましょう。
ステレオの音量はあなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽観賞には特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

保証・アフターサービスについて

1. この商品には保証書を別途添付してあります。
保証書は「販売店・お買い上げ日」をご確認の上、販売店からお受け取りいただき、よくお読みの上、大切に保存してください。

2. 保証期間はお買い上げ日より1年間です。
お買い上げ販売店、または弊社営業所で保証書記載事項に基づき「無料修理」いたします。

3. 保証期間経過後の修理。
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。

4. 弊社はこの製品の補修用性能部品を製造打切後最低8年間保有しています。

5. 補修用部品の詳細・ご贈答・ご転居等アフターサービスについての不明な点は、お買い上げ販売店または弊社営業所・サービスセンターに遠慮なくご相談ください。

6. 修理を依頼される際には、お手数ですがもう一度「故障と思ったときは」をご参照の上よくお調べください。それでも直らないときには、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店にご連絡ください。

ご連絡いただきたい内容

1）品　名　AV サラウンドアンプ

2）品　番　SR4300

3）お買上げ日　　年　月　日

4）故障の状況　（できるだけ具体的に）

5）ご住所

6）お名前

7）電話番号

仕様

FM 部

受信周波数 .... 76.0 〜 90.0 MHz
実用感度(モノラル) .... IHF 1.8 μV/16.4 dBf
S/N 比 .... モノラル/ステレオ 76/72 dB
高周波歪率 .... モノラル/ステレオ0.2/0.3 %
ステレオ・セパレーション .... 1 kHz 45 dB
実行選択度 .... ± 400 kHz 60 dB
イメージ妨害比 .... 83 MHz 70 dB
チューナー出力レベル .... 1 kHz, ± 75 kHz Dev 800 mV

AM 部

受信周波数 .... 531 - 1602 kHz
S/N 比 .... 50 dB
実用感度 .... Loop 500 μV/m
高周波歪率 .... 1 kHz, 30 % Mod. 0.5 %
選択度 .... ± 20 kHz 70 dB

オーディオ部

定格出力 (20 Hz - 20 kHz)
フロント 8ohms 80W/Ch
センター 8ohms 80W/Ch
サラウンド 8ohms 80W/Ch
サラウンドバック 8ohms 80W/Ch

フロント 6ohms 95W/Ch
センター 6ohms 95W/Ch
サラウンド 6ohms 95W/Ch
サラウンドバック 6ohms 95W/Ch

実用最大出力 (1 kHz JEITA)
フロント 6ohms 125W/Ch
センター 6ohms 125W/Ch
サラウンド 6ohms 125W/Ch
サラウンドバック 6ohms 125W/Ch

入力感度/入力インピーダンス .... 215 mV/ 47 kohms
S/N 比 (アナログ入力/Source Direct) .... 95 dB
周波数範囲 (アナログ入力/Source Direct) .... 8Hz-70kHz(±3dB)
(デジタル入力/96kHz PCM) .... 8Hz-45kHz(±3dB)

ビデオ部

信号方式 .... NTSC
入力感度/入力インピーダンス .... 1 Vp-p/ 75 ohms
出力感度/入力インピーダンス .... 1 Vp-p/ 75 ohms
ビデオ周波数特性 .... 5 Hz to 8 MHz (−1 dB)
S/N 比 .... 60 dB

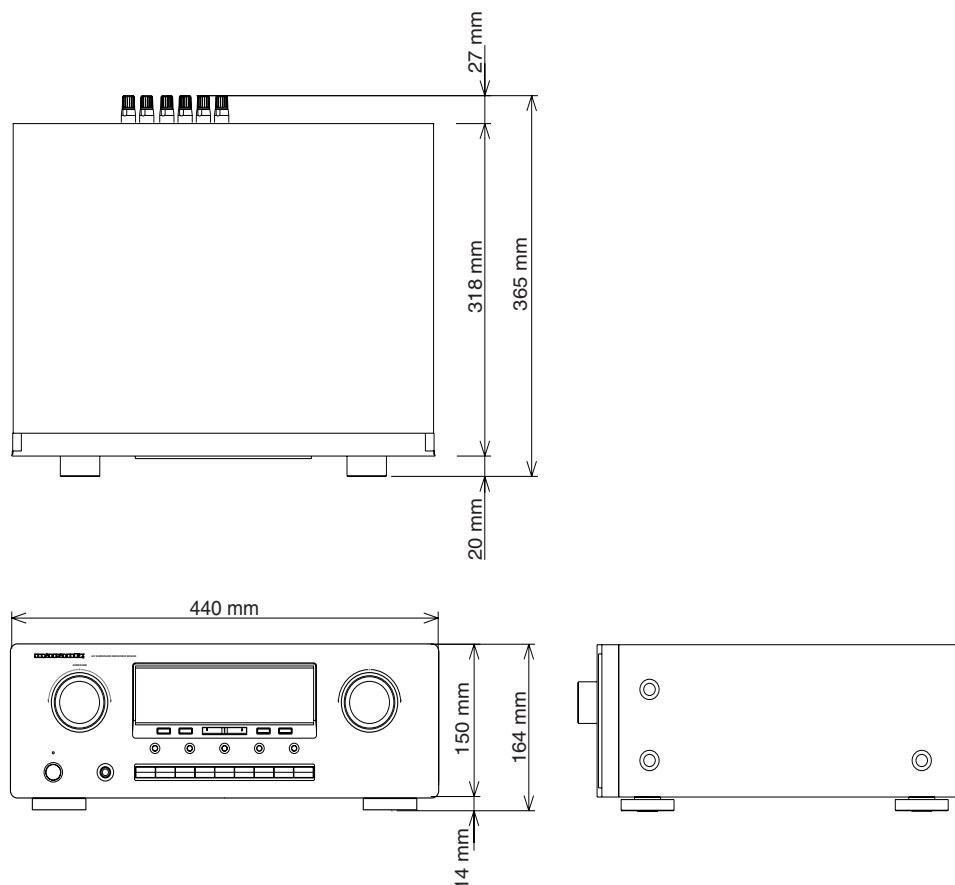
総　合

電源電圧 .... AC 100 V 50/60 Hz
消費電力(ステレオ定格出力/スピーカー負荷8Ω) 320W
質　量 .... 12.5 Kg

付属品

リモコン RC4300SR 1個
単4形乾電池 2本
FM アンテナ 1本
AM ループアンテナ 1個
保証書 .... 1部(箱に貼り付け)
愛用者カード 1枚
取扱説明書(本書) 1冊

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

外観寸法図

marantz®

日本マランツお客様ご相談センター

〒150-0022　東京都渋谷区恵比寿南1-11-9

☎ (03) 3719-3481

ご相談受付時間
9：30－12：00　13：00－17：00
(土　日　祝日、当社休日を除く)

○ 修理に関しましては下記　日本マランツ（株）各サービスセンター、各営業所で承っております。

●	札幌　営業所	〒060-0032	北海道札幌市中央区北二条東7-82	☎ (011) 231-5776
●	仙台　営業所	〒982-0011	宮城県仙台市太白区長町6-8-40	☎ (022) 308-3566
●	東京　営業所	〒150-0022	東京都渋谷区恵比寿南1-11-9	☎ (03) 3793-5721
●	神奈川営業所	〒228-8505	神奈川県相模原市相模大野7-35-1	☎ (042) 748-1245
●	名古屋営業所	〒465-0024	愛知県名古屋市名東区本郷2-75	☎ (052) 776-5073
●	大阪　営業所	〒564-0053	大阪府吹田市江の木町2-31	☎ (06) 6337-6504
●	広島　営業所	〒732-0814	広島県広島市南区段原南2-12-27	☎ (082) 262-1265
●	福岡　営業所	〒812-0014	福岡県福岡市博多区比恵町1-18	☎ (092) 441-9131
●	東京サービスセンター	〒228-8505	神奈川県相模原市相模大野7-35-1	☎ (042) 748-0762
●	大阪サービスセンター	〒564-0053	大阪府吹田市江の木町2-31	☎ (06) 6337-6699

日本マランツ株式会社
本社　〒228-8505　神奈川県相模原市相模大野7-35-1

当社の最新情報をインターネット上でご覧下さい。
http://www.marantz.co.jp

Printed in China　2002/11 MITi 09AW851110